

平成 28 年 11 月 21 日

平成 28 年度 消防庁における熱中症対策

1. 救急搬送人員数調査

○ 平成 28 年度調査概要

方法：サーベイランスシステムを使って全国の消防本部から週毎に報告

期間：4月25日～10月2日

公表：週毎に速報値としてHP上に公表し、月毎に確定値として報道発表

○ 平成 28 年度調査の結果

- ・ 5月から9月までの全国における熱中症による救急搬送人員数の累計は5万412人。
- ・ 月別の救急搬送人員数は、5月2,788人、6月3,558人、7月が1万8,671人、8月が2万1,383人、9月が4,012人となった。
- ・ 8月1日から8月21日までの期間は3週連続で5千人を超え、熱中症による救急搬送人員数が集中した。

○ 調査データの公表

- ・ 12月上旬に消防庁HPの「熱中症情報」へ掲載予定。

2. 予防に係る普及啓発等

○ 消防の取り組み

- ・ 消防庁HPに「熱中症予防啓発コンテンツ」を開設。熱中症搬送人員数調査及び熱中症対策リーフレット等の情報を掲載。新たに予防啓発ビデオ、予防啓発イラスト、予防啓発広報のコンテンツを作成し掲載。積極的な予防啓発活動に取り組んでいる。(8月2日通知)
- ・ 消防庁ツイッター（フォロワー数：80万）を用いて、国民に熱中症予防や注意情報を呼びかけた。
- ・ 熊本地震による被災住民やボランティア等の方に熱中症の注意喚起と予防方法を促した。(4月27日通知)
- ・ 暑さに体が慣れる前や、残暑による熱中症の発生を予防するため、応急手当講習等の機会を活かして熱中症予防対策を強化するように促した。(5月24日、8月2日通知)

○ 関係省庁との連携

- ・ 熱中症で救急搬送された死亡事案のうち、農作業中に発症する事案が多くなっていたことから、農林水産省へ情報提供した。(7月19日)
- ・ 環境省と連携しWBGTに係る情報について、消防庁ツイッターで配信した。また、熱中症搬送人員数調査を各地のWBGTデータの観点から分析し公表した。

平成28年の熱中症による救急搬送状況

熱中症による救急搬送人員数について、平成28年（5月から9月まで）の確定値を取りまとめましたので、その概要を公表します。

概 要

- 平成28年5月から9月までの全国における熱中症による救急搬送人員数の累計は5万412人でした。昨年同期間の5万5,852人と比べると約1割減となっています。
- 西日本、沖縄・奄美では、昨年より救急搬送人員数が増加している傾向がみられます。これは、西日本で夏（6～8月）の平均気温が高かったことや沖縄・奄美で夏の平均気温が平年差+1.1℃となり、1946年の統計開始以来、夏として1位の高温になったことも増加した要因の一つとして考えられます。
- 全国の熱中症による救急搬送状況の年齢区分別、傷病程度別の内訳等については次の通りです。
 - 救急搬送人員数の年齢区分では、高齢者が最も多く、次いで成人、少年、乳幼児、新生児の順となっています。
 - 搬送された医療機関での初診時における傷病程度をみると、軽症が最も多く、次いで中等症、重症、死亡の順となっています。
 - 都道府県別人口10万人当たりの救急搬送人員数は、熊本県が最も多く、次いで鹿児島県、岡山県の順でした。

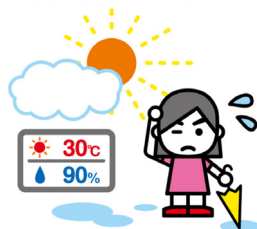
熱中症は正しい知識を身につけ、適切に予防することで、未然に防ぐことが可能です。消防庁では今年度、新たな熱中症予防啓発のコンテンツとして、「予防啓発ビデオ」「予防啓発イラスト」「予防広報メッセージ」を作成しました。全国の消防機関をはじめ、熱中症予防を啓発する関係機関にも御活用いただけるよう、以下の消防庁HPにコンテンツを掲載していますので、是非御活用ください。

消防庁HP『熱中症情報』

http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_2.html

【資料】[平成28年の熱中症による救急搬送状況の概要](#)
[平成28年9月の熱中症による救急搬送状況の概要](#)

熱中症にご注意を！ 湿度が高いときは注意



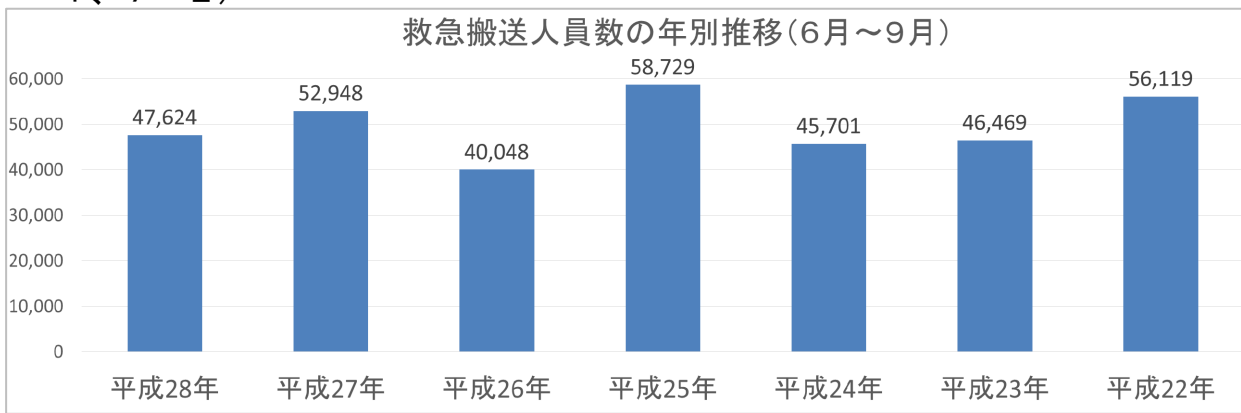
(連絡先)
消防庁救急企画室
担当：森川、勝森、足立
電話：03-5253-7529
FAX：03-5253-7539

平成28年の熱中症による救急搬送状況の概要

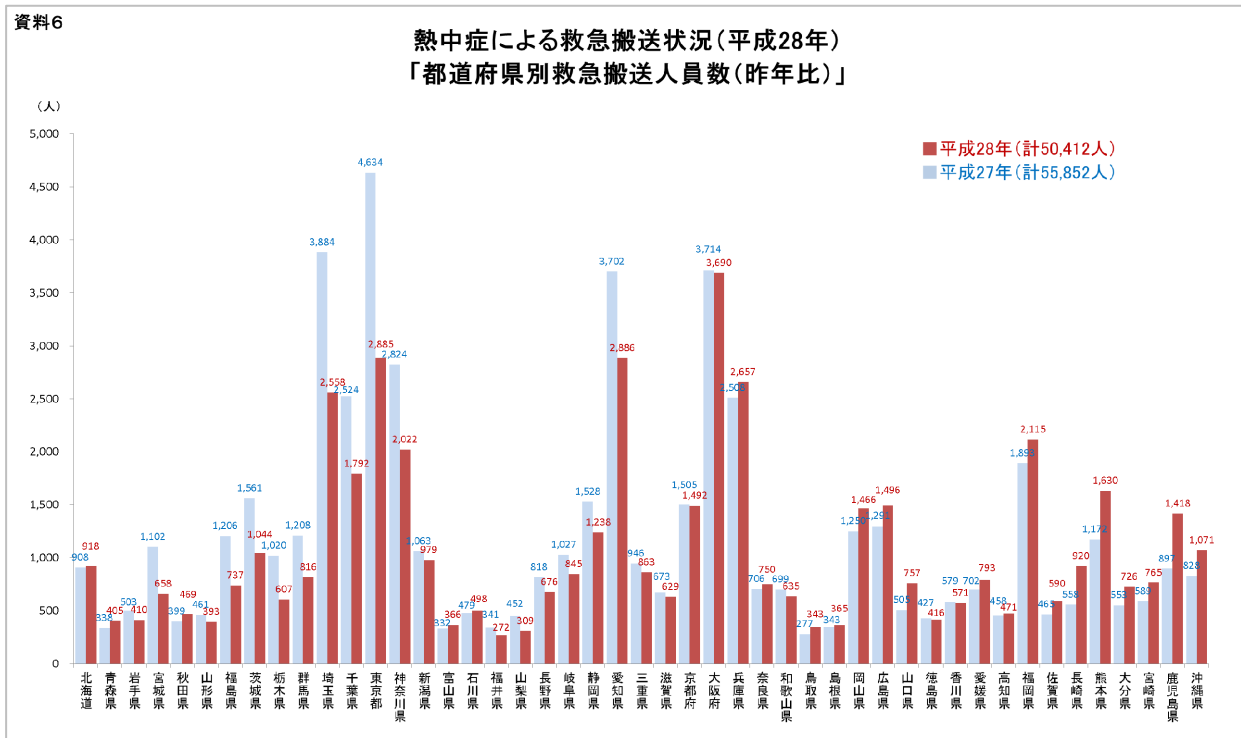
平成28年5月から9月までの熱中症による救急搬送状況について調査を行ったところ、その概要は以下のとおりでした。

1 総数

平成28年5月から9月までの全国における熱中症による救急搬送人員数の累計は5万412人でした。昨年同期間の5万5,852人と比べると約1割減となっています。西日本、沖縄・奄美では、昨年より救急搬送人員数が増加している傾向がみられます。これは、西日本で夏（6～8月）の平均気温が高かったことや沖縄・奄美で夏の平均気温が平年差+1.1℃となり、1946年の統計開始以来、夏として1位の高温になったことも増加した要因の一つとして考えられます。（資料1、2、3、4、5、6、7-1、7-2）



※平成26年までは5月分の調査を行っていないため、年別推移のグラフは6～9月で作成した。

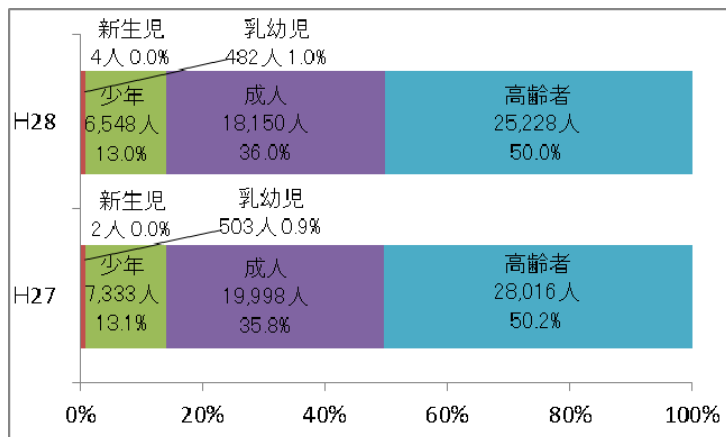


2 内 訳

(1) 年齢区分ごとの救急搬送人員数

高齢者（満65歳以上）が2万5,228人（50.0%）と半数を占め、次いで成人（満18歳以上満65歳未満）1万8,150人（36.0%）、少年（満7歳以上満18歳未満）6,548人（13.0%）、乳幼児（生後28日以上満7歳未満）482人（1.0%）の順となっています。（資料3、4）

熱中症救急搬送人員数 年齢区分別（構成比）



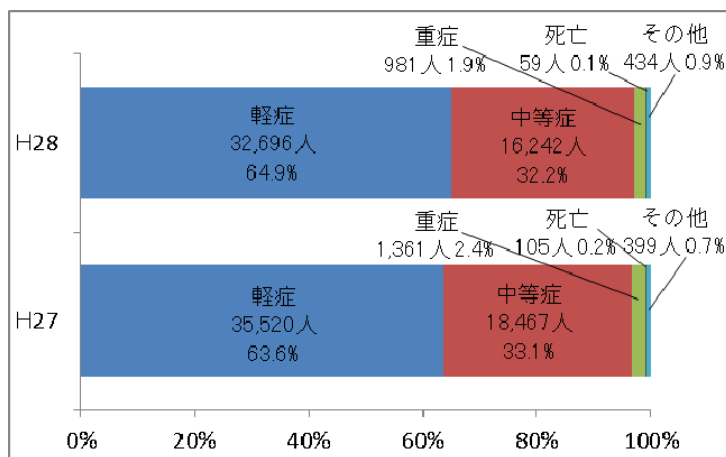
凡例

新生児：生後28日未満の者
 乳幼児：生後28日以上満7歳未満の者
 少年：満7歳以上満18歳未満の者
 成人：満18歳以上満65歳未満の者
 高齢者：満65歳以上の者

(2) 医療機関での初診時における傷病程度ごとの救急搬送人員数

軽症が最も多く3万2,696人（64.9%）、次いで中等症1万6,242人（32.2%）、重症981人（1.9%）、死亡59人（0.1%）の順となっています。（資料3、4）

熱中症救急搬送人員数 初診時傷病程度別（構成比）



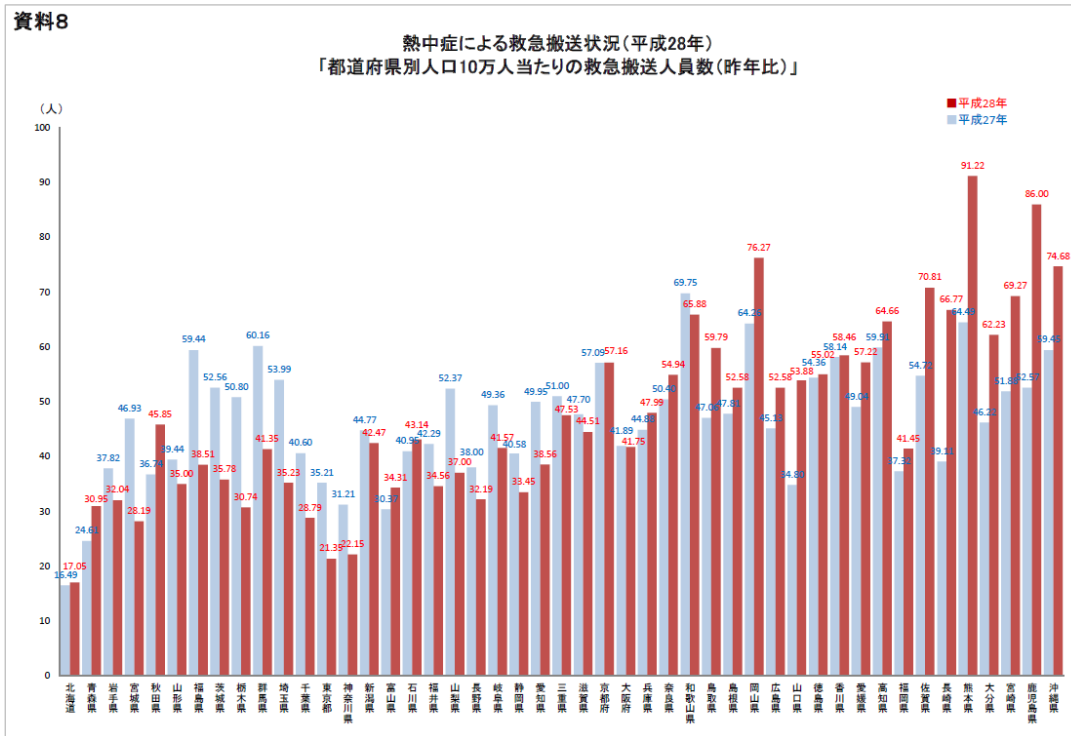
凡例

軽 症：入院加療を必要としないもの
 中等症：重症または軽症以外のもの
 重 症：3週間以上の入院加療を必要とするもの
 死 亡：初診時において死亡が確認されたもの
 その他：医師の診断がないもの
 傷病程度が判明しないもの
 その他の場所に搬送したもの

※なお、傷病程度は入院加療の必要程度を基準に区分しているため、入院の必要がなかった軽症者の中には、早期に病院での治療が必要だった者や通院による治療が必要だった者も含まれている。

(3) 都道府県別人口 10 万人当たりの救急搬送人員数

熊本県が最も多く 91.22 人であり、次いで鹿児島県 86.00 人、岡山県 76.27 人、沖縄県 74.68 人、佐賀県 70.81 人の順となっています。(資料 8、9)



【参 考】

○ 熱中症の予防対策について

熱中症を予防するには、こまめな水分補給、エアコン・扇風機を用いた室温調整及び適度な休憩をとること等が大切です。また、高齢者は暑さを自覚しにくい、喉の渇きを感じにくく、小さな子供は汗腺が未熟なため、体温調整がしにくいという特徴があります。周囲の方の気遣いが熱中症発生の予防につながります。熱中症は正しい知識を身につけ、適切に予防することで、未然に防ぐことが可能です。

消防庁では今年度、新たな熱中症予防啓発のコンテンツとして、「予防啓発ビデオ」「予防啓発イラスト」「予防広報メッセージ」を作成しました。全国の消防機関をはじめ、熱中症予防を啓発する関係機関にも御活用いただけるよう、以下の消防庁 HP にコンテンツを掲載していますので、是非御活用ください。

消防庁 HP 『熱中症情報』

http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_2.html

○ 気象庁報道発表資料「夏（6～8月）の天候」より抜粋

6月から7月にかけては、太平洋高気圧の勢力が日本の南海上で強く、沖縄・奄美では暖かい空気に覆われやすく、気温がかなり高かった。

7月後半は、千島近海で高気圧の勢力が強まり、北・東日本を中心に気温の低い時期があった。一方、日本の南では高気圧の勢力が引き続き強く、沖縄・奄美を中心に気温の高い状態が続いた。

8月は、日本付近は暖かい空気に覆われやすかったため、月平均気温は全国的に高く、沖縄・奄美ではかなり高かった。その結果、夏の日照時間はほぼ全国的に多く、夏の平均気温は全国的に高かった。特に、沖縄・奄美では夏を通して気温の高い状態が続き、夏の平均気温は平年差+1.1℃となり、夏として1位の高温となった(統計開始は1946年)。

○ 暑さ指数(WBGT)と救急搬送人員数とのデータ比較

暑さ指数と救急搬送人員数との関係について調査をするため、東京都、愛知県、大阪府で両者のデータを比較することにしました。(参考資料)

平成28年9月の熱中症による救急搬送状況の概要

平成28年9月の熱中症による救急搬送状況について調査を行ったところ、その概要は以下のとおりでした。

1 総数

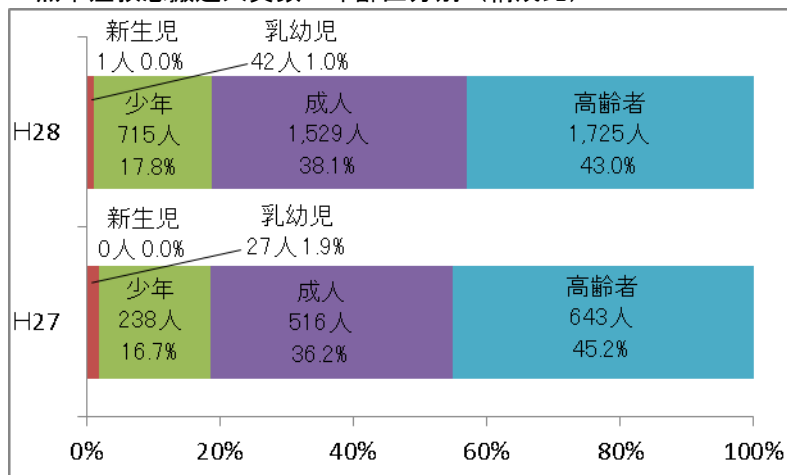
平成28年9月の全国における熱中症による救急搬送人員数は4,012人でした。これは、昨年9月の救急搬送人員数1,424人と比べると2,588人増となっています。（資料10、11、12、13）

2 内訳

(1) 年齢区分ごとの救急搬送人員数

高齢者（満65歳以上）が1,725人（43.0%）、次いで成人（満18歳以上満65歳未満）1,529人（38.1%）、少年（満7歳以上満18歳未満）715人（17.8%）、乳幼児（生後28日以上満7歳未満）42人（1.0%）の順となっています。（資料10、11）

熱中症救急搬送人員数 年齢区分別（構成比）



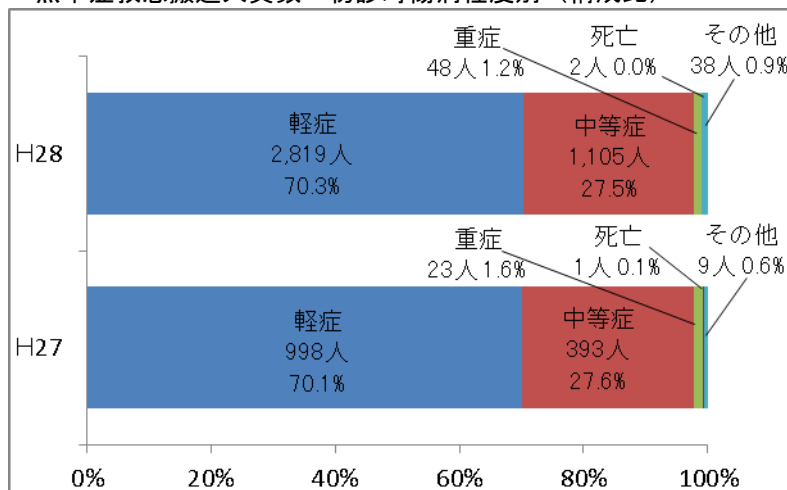
凡例

新生児：生後28日未満の者
乳幼児：生後28日以上満7歳未満の者
少年：満7歳以上満18歳未満の者
成人：満18歳以上満65歳未満の者
高齢者：満65歳以上の者

(2) 医療機関での初診時における傷病程度ごとの救急搬送人員数

軽症が最も多く2,819人（70.3%）、次いで中等症1,105人（27.5%）、重症48人（1.2%）の順となっています。（資料10、11）

熱中症救急搬送人員数 初診時傷病程度別（構成比）



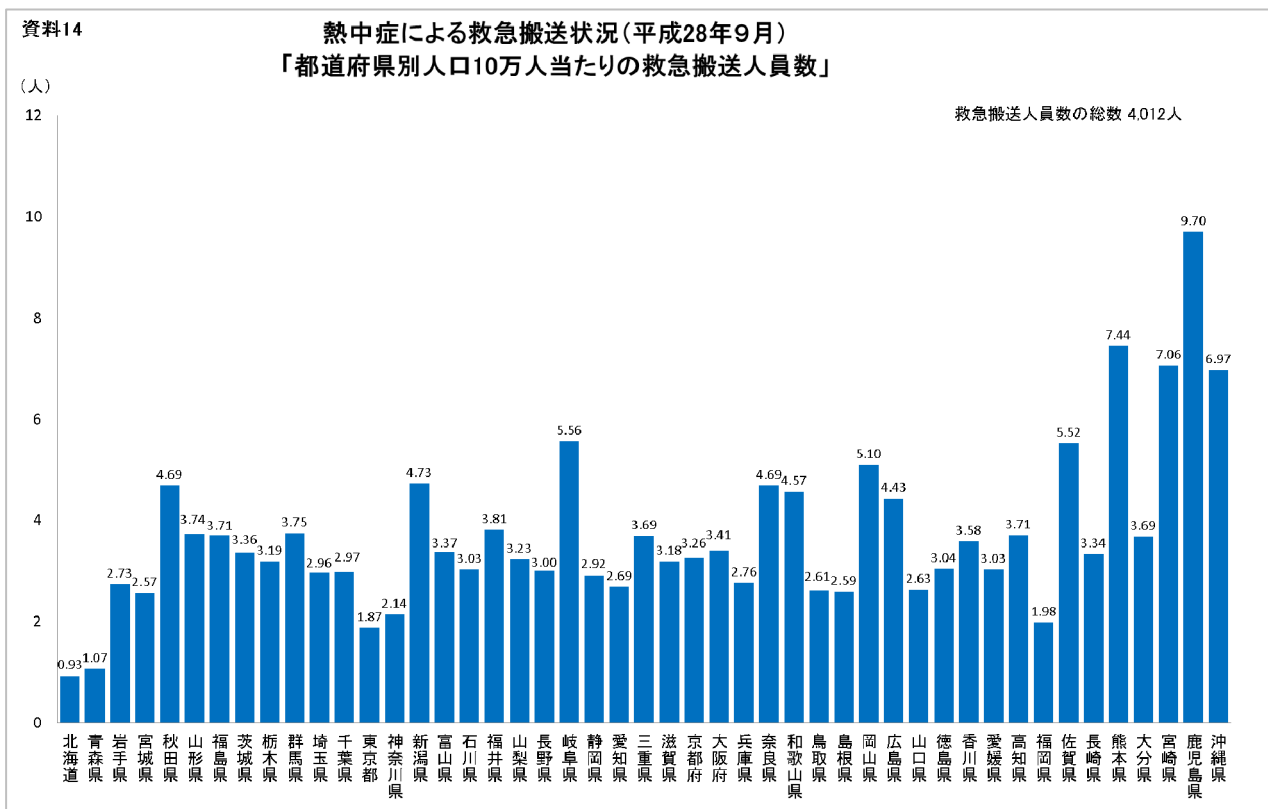
凡例

軽症：入院加療を必要としないもの
中等症：重症または軽症以外のもの
重症：3週間以上の入院加療を必要とするもの
死亡：初診時において死亡が確認されたもの
その他：医師の診断がないもの
傷病程度が判明しないもの
その他の場所に搬送したものの

※なお、傷病程度は入院加療の必要程度を基準に区分しているため、入院の必要がなかった軽症者の中には、早期に病院での治療が必要だった者や通院による治療が必要だった者も含まれている。

(3) 都道府県別人口10万人当たりの救急搬送人員数

鹿児島県が最も多く9.70人で、次いで熊本県7.44人、宮崎県7.06人、沖縄県6.97人、岐阜県5.56人の順となっています。(資料12、14)



【参考】

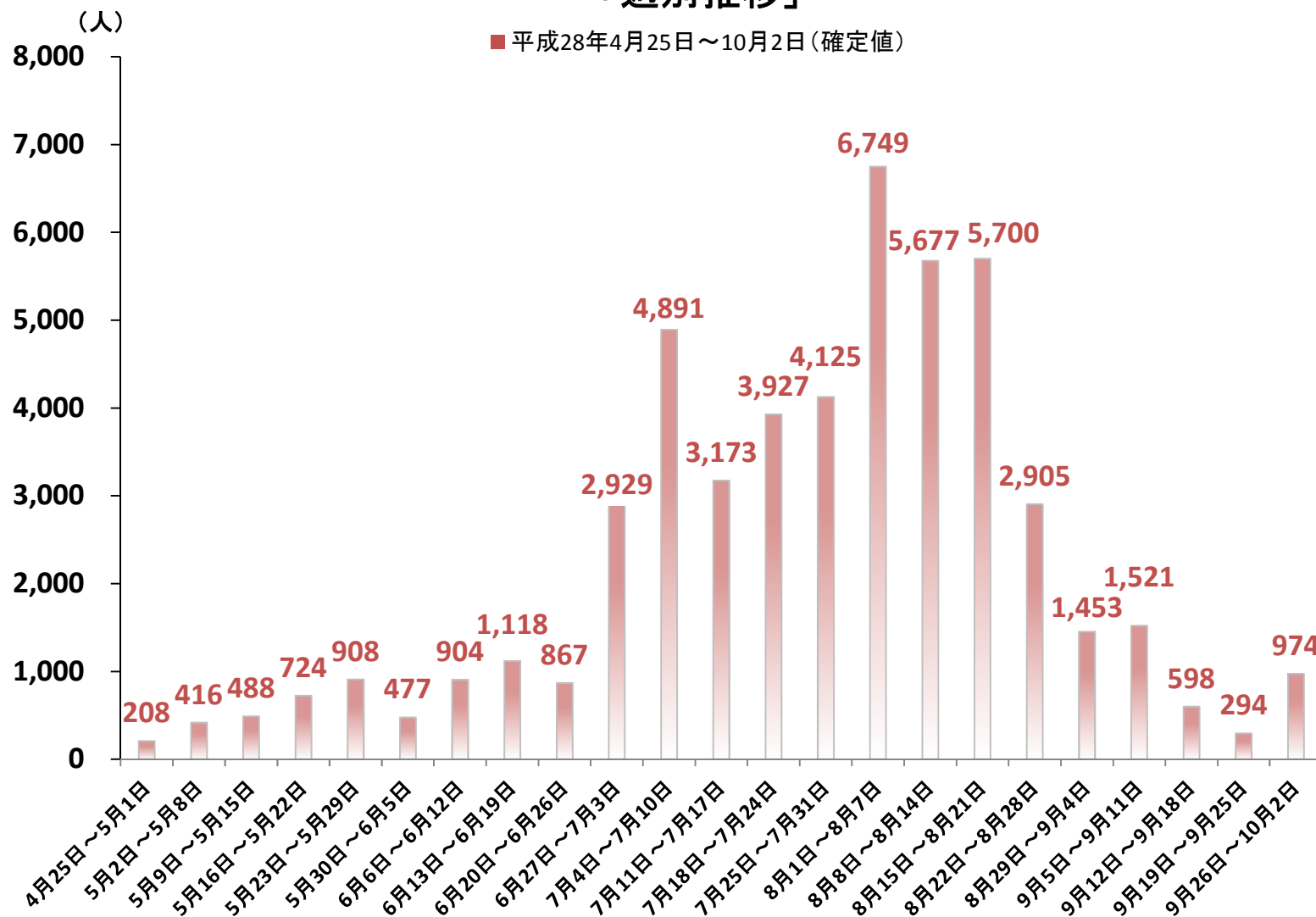
○ 気象庁報道発表資料「9月の天候」より抜粋

前線が本州付近に停滞しやすかった影響や台風がたびたび接近・上陸したことにより、東・西日本、沖縄・奄美では曇りや雨の日が多く、月間日照時間がかなり少なかった。特に、西日本日本海側では月間日照時間が平年比64%で統計を開始した1946年以降で最も少なくなった。中旬の終わりから下旬の初めにかけて北・東日本を中心に一時的に寒気が流れ込んだ他は、強い寒気の南下はなく、日本の南海上で太平洋高気圧が強かったため、南から暖かい空気が入りやすく、気温は全国的に高く、沖縄・奄美ではかなり高かった。

平成28年の熱中症による救急搬送状況

- 資料 1 熱中症による救急搬送状況（平成 28 年）
「週別推移」
- 資料 2 熱中症による救急搬送状況（平成 22 年～28 年）
「救急搬送人員数及び死亡者数（年別推移）」
- 資料 3 熱中症による救急搬送状況（平成 28 年）
「都道府県別の年齢区分別、初診時における傷病程度別救急搬送人員数」
- 資料 4 熱中症による救急搬送状況（平成 24 年～28 年）
「年齢区分別、初診時における傷病程度別搬送割合（年別推移）」
- 資料 5 熱中症による救急搬送状況（平成 28 年）
「都道府県別月別の救急搬送人員数」
- 資料 6 熱中症による救急搬送状況（平成 28 年）
「都道府県別救急搬送人員数（昨年比）」
- 資料 7－1、2 熱中症による救急搬送状況（平成 24 年～28 年）
「都道府県別月別の救急搬送人員数（年別推移）」
- 資料 8 熱中症による救急搬送状況（平成 28 年）
「都道府県別人口 10 万人当たりの救急搬送人員数（昨年比）」
- 資料 9 熱中症による救急搬送状況（平成 24 年～28 年）
「都道府県別人口 10 万人当たりの救急搬送人員数（年別推移）」
- 参考資料 主な都道府県の日別の救急搬送人員数と暑さ指数（WBGT）との比較
（平成 28 年 5 月～9 月）

熱中症による救急搬送状況(平成28年) 「週別推移」



資料2

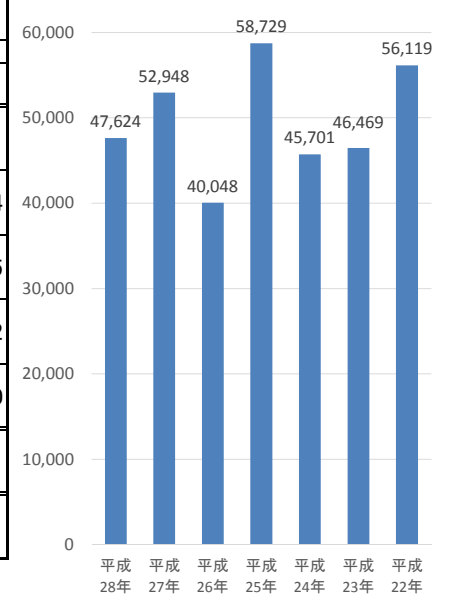
熱中症による救急搬送状況(平成22年～28年) 「救急搬送人員数及び死亡者数(年別推移)」

(単位:人)

		平成28年(2016)		平成27年(2015)		平成26年(2014)		平成25年(2013)		平成24年(2012)		平成23年(2011)		平成22年(2010)	
		搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡
確定値	5月	2,788	1	2,904	3	調査データなし									
	6月	3,558	3	3,032	2	4,634	6	4,265	4	1,837	3	6,980	14	2,276	4
	7月	18,671	29	24,567	39	18,407	31	23,699	27	21,082	37	17,963	29	17,750	95
	8月	21,383	24	23,925	60	15,183	15	27,632	57	18,573	35	17,566	27	28,448	62
	9月	4,012	2	1,424	1	1,824	3	3,133	0	4,209	1	3,960	3	7,645	10
搬送人員数(6月～9月)		47,624	58	52,948	102	40,048	55	58,729	88	45,701	76	46,469	73	56,119	171
搬送人員数(5月～9月)		50,412	59	55,852	105	調査データなし									

※平成28年は4月25日から調査を開始

救急搬送人員数の年別推移(6月～9月)



(参考) 梅雨明けの時期

	平成28年(2016)	平成27年(2015)	平成26年(2014)	平成25年(2013)	平成24年(2012)	平成23年(2011)	平成22年(2010)	(平年)
沖縄	6月16日ごろ	6月11日ごろ	6月26日ごろ	6月11日ごろ	6月23日ごろ	6月9日ごろ	6月19日ごろ	6月23日ごろ
九州	7月18日ごろ	7月17～29日ごろ	7月16～20日ごろ	7月8日ごろ	7月23日ごろ	7月8日ごろ	7月17～20日ごろ	7月14～19日ごろ
中国・四国	7月18日ごろ	7月20～24日ごろ	7月20日ごろ	7月8日ごろ	7月17日ごろ	7月8日ごろ	7月17日ごろ	7月18～21日ごろ
近畿・東海	7月18～28日ごろ	7月20日ごろ	7月20～21日ごろ	7月7～8日ごろ	7月16～23日ごろ	7月8日ごろ	7月17日ごろ	7月21日ごろ
関東甲信	7月29日ごろ	7月19日ごろ	7月21日ごろ	7月6日ごろ	7月25日ごろ	7月9日ごろ	7月17日ごろ	7月21日ごろ
北陸	7月19日ごろ	7月21日ごろ	7月21日ごろ	8月7日ごろ	7月26日ごろ	7月8日ごろ	7月17日ごろ	7月24日ごろ
東北	7月29日ごろ	7月26～29日ごろ	7月25日ごろ	8月7～10日ごろ	7月26日ごろ	7月9日ごろ	7月18日ごろ	7月25～28日ごろ

資料3

熱中症による救急搬送状況(平成28年)
「都道府県別の年齢区分別、初診時における傷病程度別救急搬送人員数」

都道府県		平成28年5月1日～9月30日											
		年齢区分(人)					初診時における傷病程度(人)						
		新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	合計	死亡	重症	中等症	軽症	その他	合計
1	北海道	0	8	99	257	554	918	3	18	264	616	17	918
2	青森県	0	4	51	137	213	405	1	14	137	250	3	405
3	岩手県	0	4	55	133	218	410	2	14	156	237	1	410
4	宮城県	1	8	102	242	305	658	0	17	300	341	0	658
5	秋田県	0	4	77	154	234	469	4	16	128	305	16	469
6	山形県	0	0	60	138	195	393	4	15	121	253	0	393
7	福島県	0	6	93	255	383	737	0	7	197	533	0	737
8	茨城県	0	14	149	401	480	1,044	3	23	366	649	3	1,044
9	栃木県	0	4	67	232	304	607	0	17	227	363	0	607
10	群馬県	0	8	157	286	365	816	0	18	281	517	0	816
11	埼玉県	0	25	335	917	1,281	2,558	4	41	825	1,688	0	2,558
12	千葉県	1	30	239	707	815	1,792	1	27	646	1,118	0	1,792
13	東京都	0	25	300	1,140	1,420	2,885	0	57	1,027	1,777	24	2,885
14	神奈川県	1	37	292	836	856	2,022	1	62	759	1,200	0	2,022
15	新潟県	0	9	127	370	473	979	2	16	256	688	17	979
16	富山県	0	2	66	108	190	366	0	15	130	220	1	366
17	石川県	0	8	65	173	252	498	1	8	128	361	0	498
18	福井県	0	3	35	116	118	272	0	10	83	179	0	272
19	山梨県	0	3	45	109	152	309	0	6	133	170	0	309
20	長野県	0	5	106	193	372	676	1	14	257	404	0	676
21	岐阜県	0	12	168	246	419	845	0	19	354	472	0	845
22	静岡県	0	23	144	457	614	1,238	0	30	310	898	0	1,238
23	愛知県	0	32	321	1,127	1,406	2,886	0	57	677	2,146	6	2,886
24	三重県	1	12	103	320	427	863	0	5	129	649	80	863
25	滋賀県	0	7	100	236	286	629	0	9	119	501	0	629
26	京都府	0	10	170	522	790	1,492	0	16	294	1,181	1	1,492
27	大阪府	0	26	466	1,460	1,738	3,690	3	22	840	2,822	3	3,690
28	兵庫県	0	18	343	858	1,438	2,657	2	51	760	1,841	3	2,657
29	奈良県	0	12	112	254	372	750	0	13	228	509	0	750
30	和歌山県	0	11	65	223	336	635	2	15	123	494	1	635
31	鳥取県	0	6	50	122	165	343	0	2	154	185	2	343
32	島根県	0	5	44	125	191	365	1	10	150	187	17	365
33	岡山県	0	18	162	493	793	1,466	2	38	448	972	6	1,466
34	広島県	0	7	175	470	844	1,496	2	35	667	791	1	1,496
35	山口県	0	2	95	281	379	757	7	4	241	500	5	757
36	徳島県	0	4	63	121	228	416	0	13	143	206	54	416
37	香川県	0	5	54	160	352	571	0	29	274	266	2	571
38	愛媛県	0	6	92	271	424	793	5	15	211	560	2	793
39	高知県	0	1	34	164	272	471	0	13	130	317	11	471
40	福岡県	0	17	287	769	1,042	2,115	3	20	1,005	1,064	23	2,115
41	佐賀県	0	4	100	216	270	590	0	11	180	378	21	590
42	長崎県	0	2	113	311	494	920	2	27	386	505	0	920
43	熊本県	0	9	220	592	809	1,630	1	35	623	970	1	1,630
44	大分県	0	1	87	206	432	726	0	13	323	390	0	726
45	宮崎県	0	6	118	242	399	765	2	17	225	521	0	765
46	鹿児島県	0	5	179	482	752	1,418	0	29	612	776	1	1,418
47	沖縄県	0	14	163	518	376	1,071	0	18	215	726	112	1,071
合計【人】		4	482	6,548	18,150	25,228	50,412	59	981	16,242	32,696	434	50,412
割合		0.0%	1.0%	13.0%	36.0%	50.0%	100.0%	0.1%	1.9%	32.2%	64.9%	0.9%	100.0%

※熱中症の搬送人員に対する割合の算出に当たっては、端数処理(四捨五入)のため、割合の合計は100%にならない場合があります。

資料4

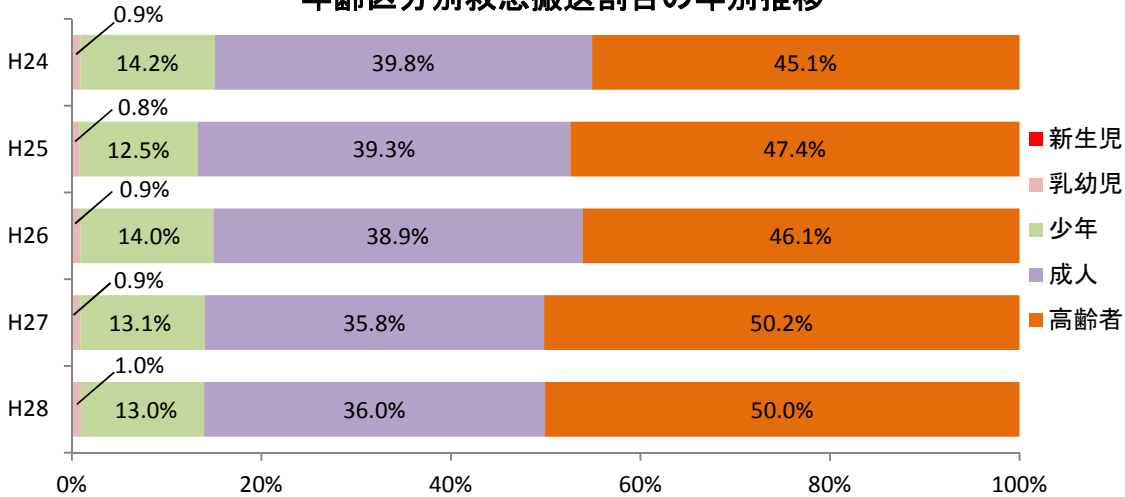
熱中症による救急搬送状況(平成24年～28年)
「年齢区分別、初診時における傷病程度別搬送割合(年別推移)」

熱中症による救急搬送状況の年別推移

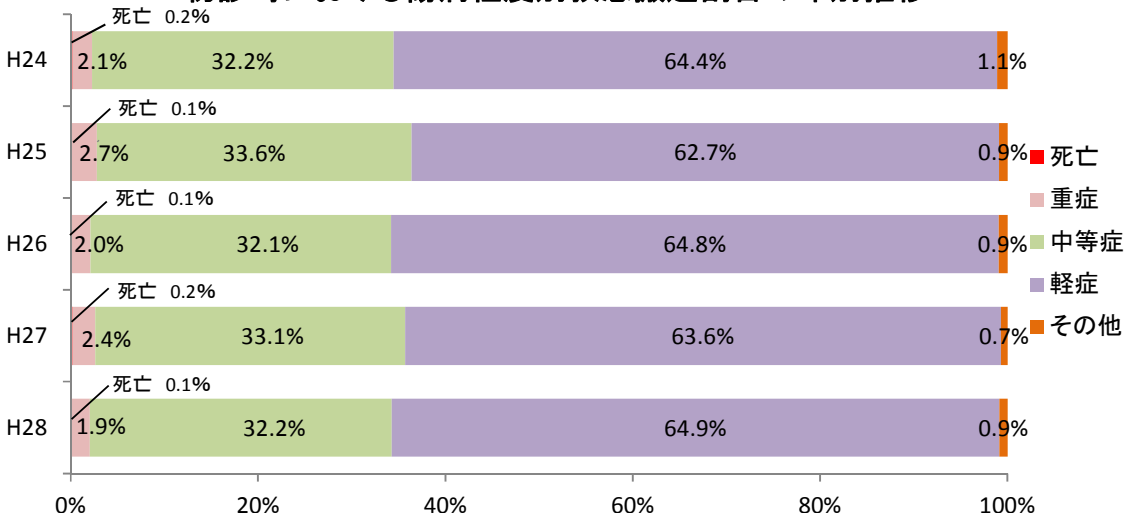
	年齢区分(人)						初診時における傷病程度(人)					
	新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	合計	死亡	重症	中等症	軽症	その他	合計
H24年	5	412	6,467	18,192	20,625	45,701	76	980	14,736	29,426	483	45,701
	0.0%	0.9%	14.2%	39.8%	45.1%		0.2%	2.1%	32.2%	64.4%	1.1%	
H25年	6	466	7,367	23,062	27,828	58,729	88	1,568	19,754	36,805	514	58,729
	0.0%	0.8%	12.5%	39.3%	47.4%		0.1%	2.7%	33.6%	62.7%	0.9%	
H26年	4	359	5,622	15,595	18,468	40,048	55	787	12,860	25,967	379	40,048
	0.0%	0.9%	14.0%	38.9%	46.1%		0.1%	2.0%	32.1%	64.8%	0.9%	
H27年	2	503	7,333	19,998	28,016	55,852	105	1,361	18,467	35,520	399	55,852
	0.0%	0.9%	13.1%	35.8%	50.2%		0.2%	2.4%	33.1%	63.6%	0.7%	
H28年	4	482	6,548	18,150	25,228	50,412	59	981	16,242	32,696	434	50,412
	0.0%	1.0%	13.0%	36.0%	50.0%		0.1%	1.9%	32.2%	64.9%	0.9%	

* 平成24年～26年は6月～9月、平成27年、28年は5月～9月の搬送人員数。

年齢区分別救急搬送割合の年別推移



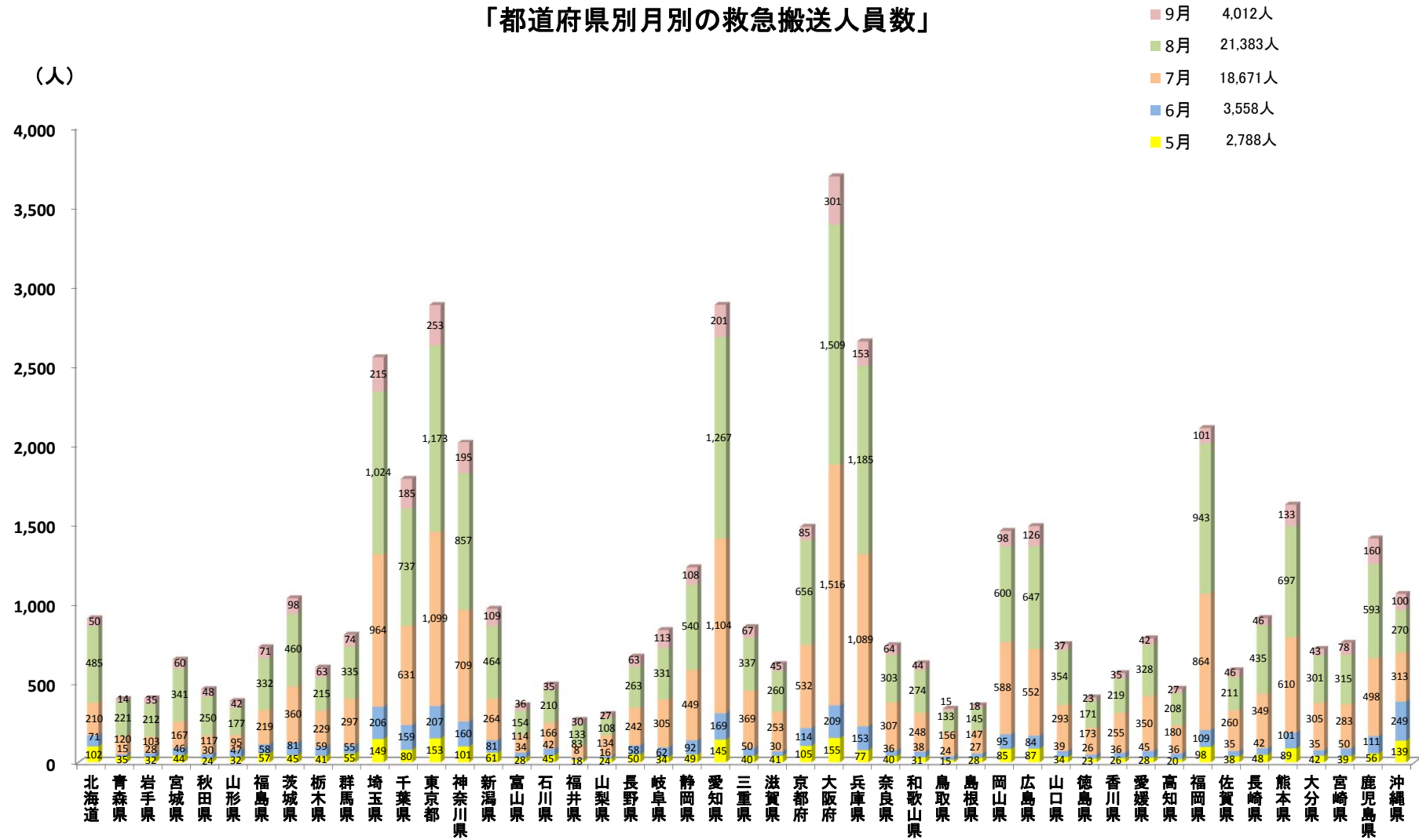
初診時における傷病程度別救急搬送割合の年別推移



* 割合の算出に当たっては、端数処理(四捨五入)のため、割合の合計は100%にならない場合があります。

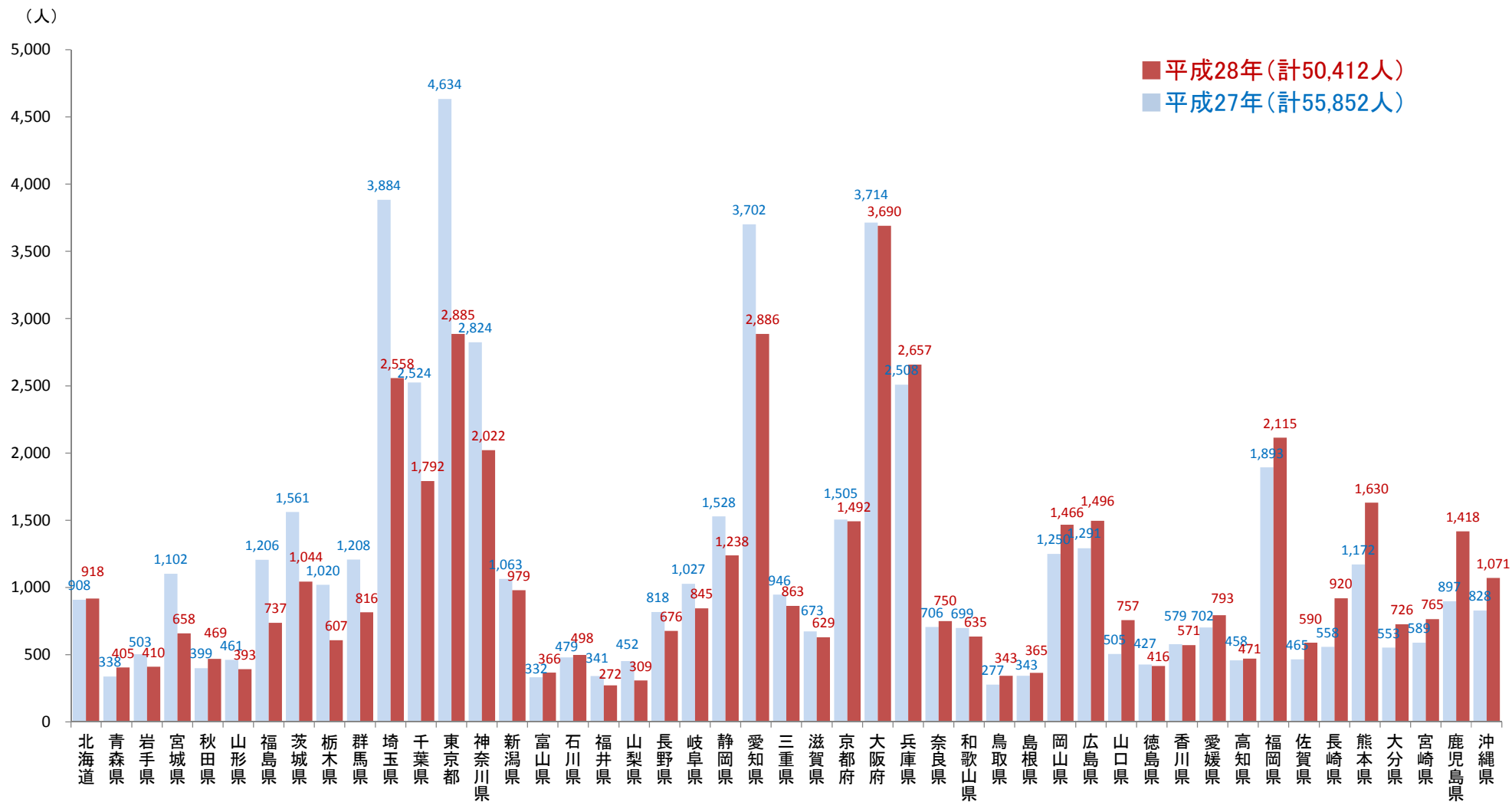
資料5

熱中症による救急搬送状況(平成28年)
「都道府県別月別の救急搬送人員数」



資料6

熱中症による救急搬送状況(平成28年)
「都道府県別救急搬送人員数(昨年比)」



熱中症による救急搬送状況(平成24年～28年)
「都道府県別月別の救急搬送人員数(年別推移)」

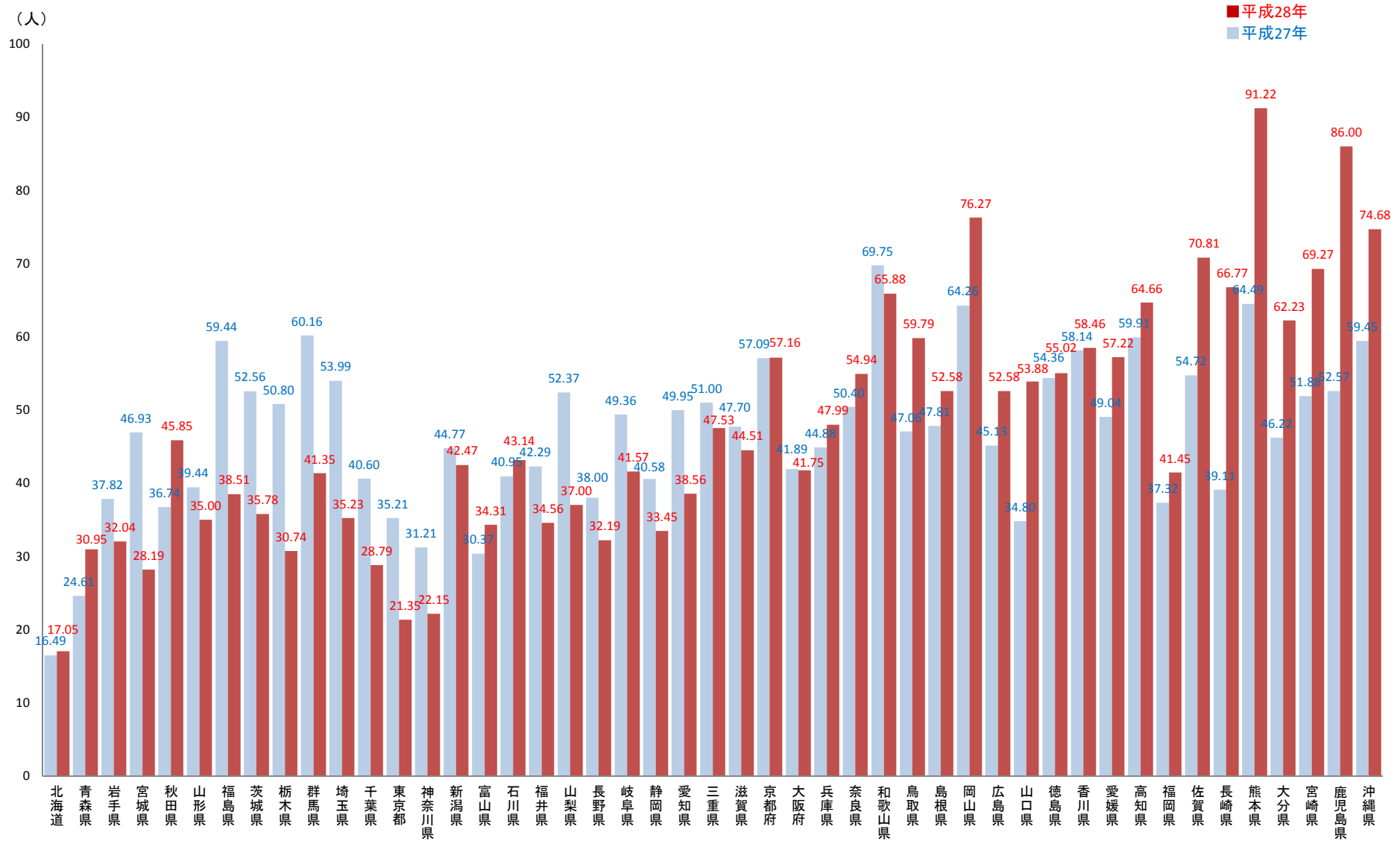
都道府県		5月～7月の救急搬送人員数											
		5月		6月					7月				
		平成27年	平成28年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
1	北海道	26	102	77	123	212	63	71	419	430	289	429	210
2	青森県	13	35	18	23	35	23	15	122	83	106	159	120
3	岩手県	37	32	30	48	40	27	28	216	62	125	246	103
4	宮城県	66	44	28	44	76	35	46	347	171	265	524	167
5	秋田県	34	24	33	72	59	30	30	137	85	99	186	117
6	山形県	48	32	13	59	50	46	47	145	54	141	217	95
7	福島県	75	57	39	84	103	66	58	357	250	384	591	219
8	茨城県	56	45	36	53	97	57	81	608	532	531	717	360
9	栃木県	64	41	46	36	55	40	59	366	329	333	538	229
10	群馬県	47	55	45	60	80	57	55	454	468	409	678	297
11	埼玉県	170	149	89	195	270	191	206	1,459	1,523	1,217	2,016	964
12	千葉県	109	80	46	112	178	112	159	861	1,349	901	1,235	631
13	東京都	176	153	83	169	307	178	207	1,433	2,024	1,263	2,293	1,099
14	神奈川県	116	101	54	125	179	109	160	939	1,473	889	1,399	709
15	新潟県	70	61	37	128	124	79	81	461	231	349	525	264
16	富山県	18	28	6	25	35	17	34	181	105	112	174	114
17	石川県	21	45	43	34	46	46	42	202	144	155	228	166
18	福井県	21	18	6	22	40	19	8	139	116	117	148	83
19	山梨県	32	24	7	22	33	25	16	95	173	163	227	134
20	長野県	61	50	35	58	103	44	58	328	280	295	400	242
21	岐阜県	59	34	31	104	94	60	62	427	457	333	392	305
22	静岡県	76	49	24	75	136	54	92	458	690	473	646	449
23	愛知県	200	145	107	254	323	162	169	1,483	1,992	1,186	1,524	1,104
24	三重県	52	40	17	95	85	49	50	458	513	312	379	369
25	滋賀県	30	41	12	58	67	39	30	297	298	265	251	253
26	京都府	105	105	54	164	145	80	114	651	679	564	566	532
27	大阪府	141	155	95	362	289	173	209	1,285	1,453	1,190	1,422	1,516
28	兵庫県	116	77	73	230	216	116	153	880	998	879	900	1,089
29	奈良県	47	40	19	81	75	48	36	304	285	239	227	307
30	和歌山県	31	31	21	62	65	34	38	249	290	231	276	248
31	鳥取県	15	15	7	21	23	20	24	177	119	96	129	156
32	島根県	24	28	22	30	30	26	27	180	129	147	151	147
33	岡山県	89	85	56	174	113	86	95	535	435	381	506	588
34	広島県	84	87	60	168	112	84	84	499	552	356	436	552
35	山口県	19	34	24	45	39	24	39	249	321	197	210	293
36	徳島県	32	23	19	46	23	29	26	141	186	140	162	173
37	香川県	31	26	20	49	45	29	36	252	251	205	245	255
38	愛媛県	28	28	23	34	57	55	45	334	367	269	276	350
39	高知県	30	20	29	42	30	24	36	171	219	155	175	180
40	福岡県	123	98	67	131	101	86	109	918	1,193	742	774	864
41	佐賀県	40	38	27	41	31	34	35	174	204	126	207	260
42	長崎県	22	48	15	38	32	26	42	241	325	187	192	349
43	熊本県	73	89	56	87	77	54	101	443	451	385	503	610
44	大分県	32	42	36	46	49	27	35	245	359	227	221	305
45	宮崎県	33	39	24	72	27	33	50	220	315	254	234	283
46	鹿児島県	31	56	42	81	44	54	111	349	479	388	396	498
47	沖縄県	81	139	86	183	184	262	249	193	257	337	237	313
合計		2,904	2,788	1,837	4,265	4,634	3,032	3,558	21,082	23,699	18,407	24,567	18,671

熱中症による救急搬送状況(平成24年～28年)
「都道府県別月別の救急搬送人員数(年別推移)」

都道府県		8月～9月の救急搬送人員数									
		8月					9月				
		平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
1	北海道	434	308	276	367	485	178	22	18	23	50
2	青森県	229	159	124	140	221	98	13	15	3	14
3	岩手県	219	164	174	184	212	53	19	12	9	35
4	宮城県	356	474	477	451	341	119	36	19	26	60
5	秋田県	308	146	103	147	250	85	23	5	2	48
6	山形県	227	172	167	142	177	38	24	8	8	42
7	福島県	463	472	472	451	332	93	49	14	23	71
8	茨城県	466	759	630	679	460	161	91	35	52	98
9	栃木県	284	456	383	359	215	68	39	23	19	63
10	群馬県	378	471	445	401	335	60	41	14	25	74
11	埼玉県	1,131	1,617	1,364	1,414	1,024	257	207	57	93	215
12	千葉県	862	1,498	893	1,003	737	199	197	60	65	185
13	東京都	1,422	2,087	1,613	1,904	1,173	235	255	79	83	253
14	神奈川県	879	1,522	897	1,132	857	186	205	73	68	195
15	新潟県	546	515	473	382	464	137	102	27	7	109
16	富山県	171	176	148	119	154	38	11	18	4	36
17	石川県	249	169	179	178	210	55	31	13	6	35
18	福井県	147	161	92	145	133	42	26	3	8	30
19	山梨県	90	159	110	151	108	18	23	12	17	27
20	長野県	301	301	179	294	263	39	34	10	19	63
21	岐阜県	319	450	168	494	331	62	53	42	22	113
22	静岡県	454	864	322	701	540	113	88	68	51	108
23	愛知県	973	1,703	778	1,730	1,267	169	141	115	86	201
24	三重県	225	552	187	447	337	53	47	28	19	67
25	滋賀県	208	328	174	335	260	45	18	28	18	45
26	京都府	562	799	311	725	656	114	73	36	29	85
27	大阪府	1,114	2,064	844	1,894	1,509	350	185	148	84	301
28	兵庫県	913	1,282	487	1,343	1,185	176	123	84	33	153
29	奈良県	199	335	149	374	303	51	56	27	10	64
30	和歌山県	176	322	131	335	274	51	34	25	23	44
31	鳥取県	152	179	54	104	133	20	18	8	9	15
32	島根県	180	139	69	131	145	55	18	13	11	18
33	岡山県	401	608	233	540	600	124	69	59	29	98
34	広島県	461	799	225	627	647	92	72	68	60	126
35	山口県	201	373	102	242	354	29	34	17	10	37
36	徳島県	121	198	87	194	171	23	10	21	10	23
37	香川県	174	344	115	271	219	43	19	26	3	35
38	愛媛県	262	367	159	324	328	65	36	21	19	42
39	高知県	139	292	121	214	208	24	21	20	15	27
40	福岡県	673	1,222	324	870	943	54	139	83	40	101
41	佐賀県	168	298	72	175	211	35	30	26	9	46
42	長崎県	294	422	109	291	435	42	39	33	27	46
43	熊本県	309	599	147	496	697	56	98	52	46	133
44	大分県	163	334	108	242	301	27	20	13	31	43
45	宮崎県	144	291	127	263	315	53	36	40	26	78
46	鹿児島県	276	420	238	358	593	67	139	86	58	160
47	沖縄県	150	262	143	162	270	57	69	122	86	100
合計		18,573	27,632	15,183	23,925	21,383	4,209	3,133	1,824	1,424	4,012

資料8

熱中症による救急搬送状況(平成28年) 「都道府県別人口10万人当たりの救急搬送人員数(昨年比)」



資料9

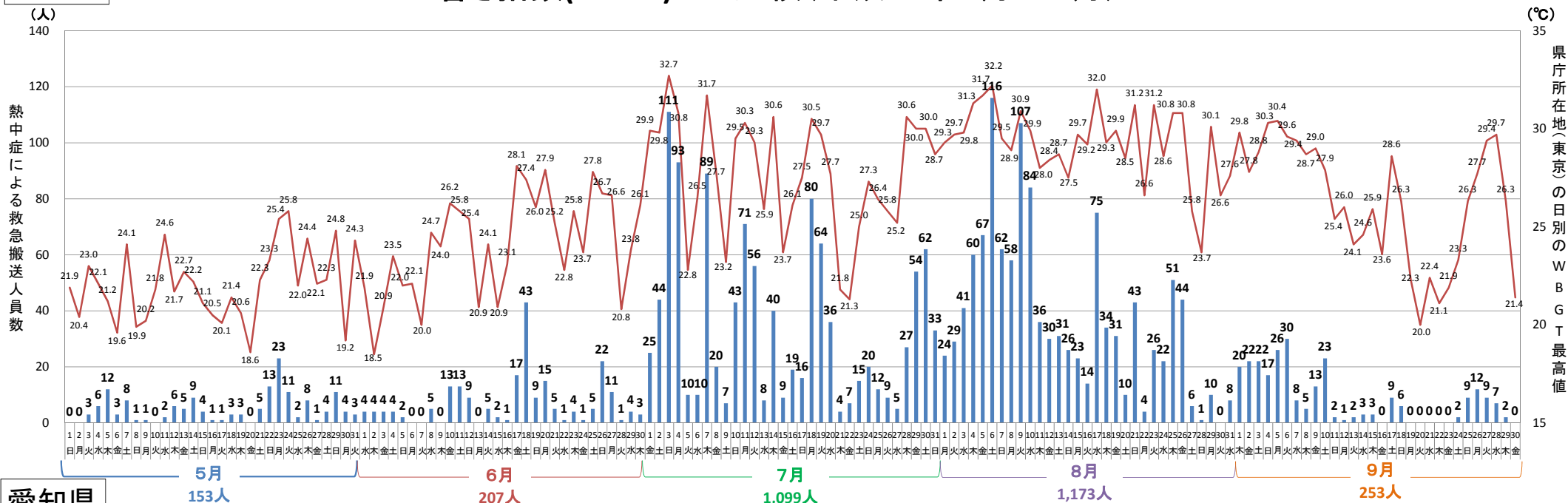
熱中症による救急搬送状況(平成24年～28年)
「都道府県別人口10万人当たりの救急搬送人員数(年別推移)」

都道府県	6月1日～9月30日						5月1日～9月30日			
	平成24年熱中症搬送人員		平成25年熱中症搬送人員		平成26年熱中症搬送人員		平成27年熱中症搬送人員		平成28年熱中症搬送人員	
	(人)	人口10万人当たりの搬送人員(人)	(人)	人口10万人当たりの搬送人員(人)	(人)	人口10万人当たりの搬送人員(人)	(人)	人口10万人当たりの搬送人員(人)	(人)	人口10万人当たりの搬送人員(人)
1 北海道	1,108	20.12	883	16.04	795	14.64	908	16.49	918	17.05
2 青森県	467	34.00	278	20.24	280	20.97	338	24.61	405	30.95
3 岩手県	518	38.94	293	22.03	351	27.10	503	37.82	410	32.04
4 宮城県	850	36.20	725	30.88	837	35.95	1,102	46.93	658	28.19
5 秋田県	563	51.84	326	30.02	266	25.33	399	36.74	469	45.85
6 山形県	423	36.19	309	26.43	366	32.08	461	39.44	393	35.00
7 福島県	952	46.92	855	42.14	973	50.00	1,206	59.44	737	38.51
8 茨城県	1,271	42.80	1,435	48.32	1,293	44.11	1,561	52.56	1,044	35.78
9 栃木県	764	38.05	860	42.84	794	39.98	1,020	50.80	607	30.74
10 群馬県	937	46.66	1,040	51.79	948	47.78	1,208	60.16	816	41.35
11 埼玉県	2,936	40.81	3,542	49.23	2,908	40.27	3,884	53.99	2,558	35.23
12 千葉県	1,968	31.66	3,156	50.77	2,032	32.82	2,524	40.60	1,792	28.79
13 東京都	3,173	24.11	4,535	34.46	3,262	24.53	4,634	35.21	2,885	21.35
14 神奈川県	2,058	22.74	3,325	36.75	2,038	22.45	2,824	31.21	2,022	22.15
15 新潟県	1,181	49.74	976	41.10	973	41.76	1,063	44.77	979	42.47
16 富山県	396	36.22	317	29.00	313	29.09	332	30.37	366	34.31
17 石川県	549	46.93	378	32.31	393	33.91	479	40.95	498	43.14
18 福井県	334	41.42	325	40.31	252	31.70	341	42.29	272	34.56
19 山梨県	210	24.33	377	43.68	318	37.54	452	52.37	309	37.00
20 長野県	703	32.66	673	31.27	587	27.66	818	38.00	676	32.19
21 岐阜県	839	40.32	1,064	51.13	637	31.06	1,027	49.36	845	41.57
22 静岡県	1,049	27.86	1,717	45.60	999	26.83	1,528	40.58	1,238	33.45
23 愛知県	2,732	36.87	4,090	55.19	2,402	32.27	3,702	49.95	2,886	38.56
24 三重県	753	40.60	1,207	65.08	612	33.39	946	51.00	863	47.53
25 滋賀県	562	39.84	702	49.76	534	37.71	673	47.70	629	44.51
26 京都府	1,381	52.39	1,715	65.06	1,056	40.35	1,505	57.09	1,492	57.16
27 大阪府	2,844	32.08	4,064	45.84	2,471	27.92	3,714	41.89	3,690	41.75
28 兵庫県	2,042	36.54	2,633	47.12	1,666	29.97	2,508	44.88	2,657	47.99
29 奈良県	573	40.91	757	54.04	490	35.43	706	50.40	750	54.94
30 和歌山県	497	49.59	708	70.64	452	46.17	699	69.75	635	65.88
31 鳥取県	356	60.48	337	57.25	181	31.31	277	47.06	343	59.79
32 島根県	437	60.91	316	44.05	259	36.89	343	47.81	365	52.58
33 岡山県	1,116	57.37	1,286	66.11	786	40.73	1,250	64.26	1,466	76.27
34 広島県	1,112	38.87	1,591	55.61	761	26.80	1,291	45.13	1,496	52.58
35 山口県	503	34.66	773	53.26	355	25.00	505	34.80	757	53.88
36 徳島県	304	38.70	440	56.02	271	35.19	427	54.36	416	55.02
37 香川県	489	49.10	663	66.58	391	39.70	579	58.14	571	58.46
38 愛媛県	684	47.78	804	56.17	506	36.01	702	49.04	793	57.22
39 高知県	363	47.48	574	75.09	326	43.76	458	59.91	471	64.66
40 福岡県	1,712	33.75	2,685	52.94	1,250	24.56	1,893	37.32	2,115	41.45
41 佐賀県	404	47.54	573	67.43	255	30.36	465	54.72	590	70.81
42 長崎県	592	41.49	824	57.75	361	25.84	558	39.11	920	66.77
43 熊本県	864	47.54	1,235	67.95	661	36.70	1,172	64.49	1,630	91.22
44 大分県	471	39.36	759	63.43	397	33.70	553	46.22	726	62.23
45 宮崎県	441	38.85	714	62.89	448	40.00	589	51.88	765	69.27
46 鹿児島県	734	43.02	1,119	65.58	756	45.00	897	52.57	1,418	86.00
47 沖縄県	486	34.89	771	55.36	786	55.55	828	59.45	1,071	74.68
合計	45,701		58,729		40,048		55,852		50,412	

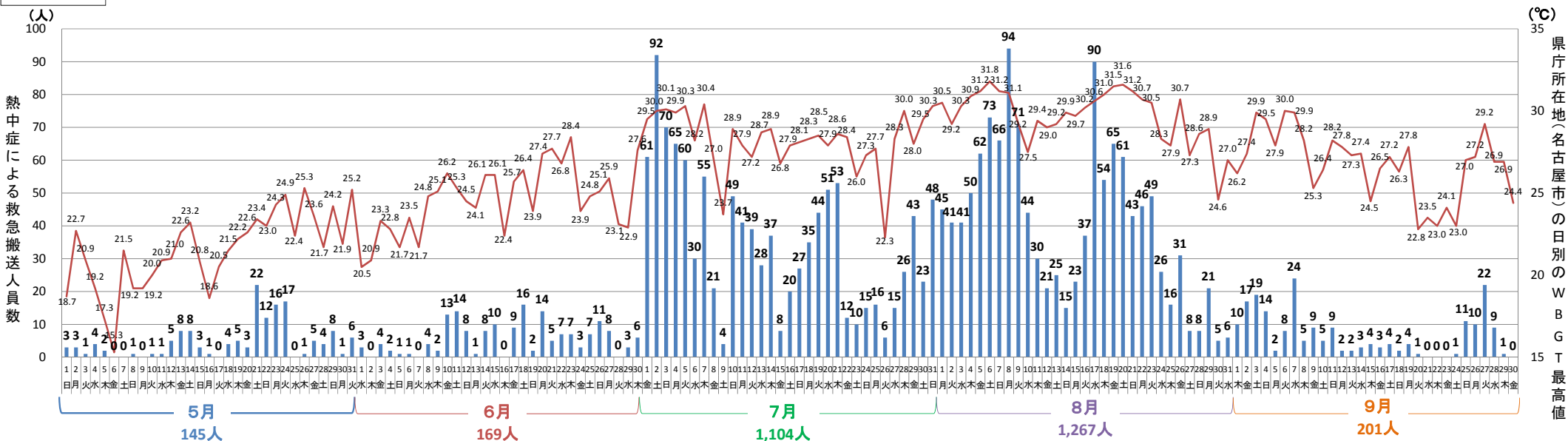
参考資料

主な都道府県の日別の救急搬送人員数と暑さ指数(WBGT)との比較(平成28年5月～9月)

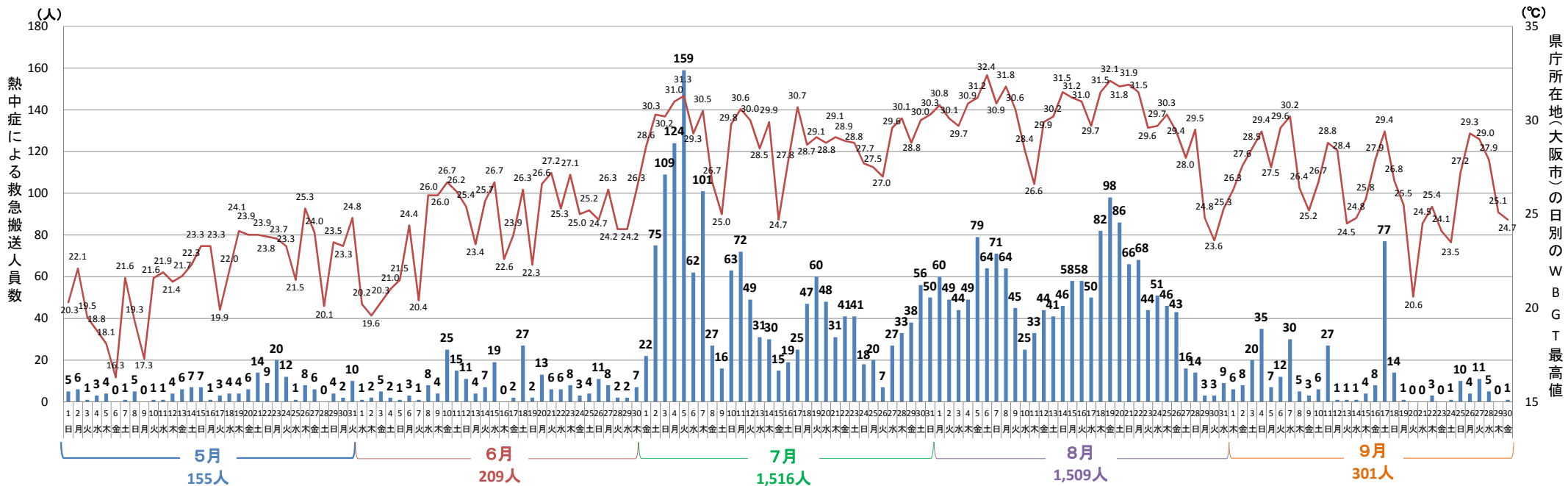
東京都



愛知県



大阪府



【参考】

- 暑さ指数(WBGT(湿球黒球温度): Wet Bulb Globe Temperature)とは、熱中症を予防することを目的として1954年にアメリカで提案された指標です。単位は気温と同じ摂氏度(°C)で示されますが、その値は気温とは異なります。暑さ指数は(WBGT)は人体と外気との熱のやりとり(熱収支)に着目した指標で、人体の熱収支に与える影響の大きい①湿度、②日射・輻射など周囲の熱環境、③気温の3つを取り入れた指標です。
- 暑さ指数(WBGT)の温度基準、注意すべき生活活動の目安、注意事項(右図)環境省HPより抜粋
- 環境省熱中症予防情報サイト <http://www.wbgt.env.go.jp/>

温度基準 (WBGT)	注意すべき生活活動の目安	注意事項
危険 (31℃以上)	すべての生活活動でおこる危険性	高齢者においては安静状態でも発生する危険性が高い。外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。
厳重警戒 (28~31℃※)		外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する。
警戒 (25~28℃※)	中等度以上の生活活動でおこる危険性	運動や激しい作業をする際は定期的に十分に休息を取り入れる。
注意 (25℃未満)	強い生活活動でおこる危険性	一般に危険性は少ないが激しい運動や重労働時には発生する危険性がある。

※ (28~31℃) 及び (25~28℃) については、それぞれ28℃以上31℃未満、25℃以上28℃未満を示します。
日本生気象学会「日常生活における熱中症予防指針Ver.3」(2013)より

平成 28 年 9 月の熱中症による救急搬送状況

- 資料 10 熱中症による救急搬送状況（平成 28 年 9 月）
「日別の年齢区分別、初診時における傷病程度別救急搬送人員数」
- 資料 11 熱中症による救急搬送状況（平成 28 年 9 月）
「都道府県別の年齢区分別、初診時における傷病程度別救急搬送人員数」
- 資料 12 熱中症による救急搬送状況（平成 28 年 9 月）
「都道府県別救急搬送人員数昨年比（表）」
- 資料 13 熱中症による救急搬送状況（平成 28 年 9 月）
「都道府県別救急搬送人員数昨年比（グラフ）」
- 資料 14 熱中症による救急搬送状況（平成 28 年 9 月）
「都道府県別人口 10 万人当たりの救急搬送人員数」

資料10

熱中症による救急搬送状況(平成28年9月)
「日別の年齢区分別、初診時における傷病程度別救急搬送人員数」

日付	曜日	熱中症 救急搬 送人員 数(人)	年齢区分(人)						初診時における傷病程度(人)					
			新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	合計	死亡	重症	中等症	軽症	その他	合計
9月1日	木	228	1	2	30	70	125	228	0	4	79	144	1	228
9月2日	金	235	0	0	25	88	122	235	0	7	73	153	2	235
9月3日	土	293	0	3	77	96	117	293	0	2	78	211	2	293
9月4日	日	345	0	0	58	152	135	345	0	3	99	240	3	345
9月5日	月	267	0	5	33	88	141	267	0	1	91	174	1	267
9月6日	火	389	0	1	57	157	174	389	0	4	122	259	4	389
9月7日	水	284	0	3	47	110	124	284	0	10	77	197	0	284
9月8日	木	72	0	3	8	28	33	72	0	2	14	55	1	72
9月9日	金	141	0	1	23	40	77	141	0	2	39	100	0	141
9月10日	土	200	0	1	60	67	72	200	0	1	49	147	3	200
9月11日	日	168	0	2	36	64	66	168	0	0	41	122	5	168
9月12日	月	43	0	1	6	13	23	43	0	0	15	28	0	43
9月13日	火	32	0	0	3	11	18	32	0	0	7	21	4	32
9月14日	水	87	0	2	57	15	13	87	0	0	14	72	1	87
9月15日	木	69	0	3	11	18	37	69	0	2	19	47	1	69
9月16日	金	81	0	2	13	32	34	81	0	1	22	57	1	81
9月17日	土	239	0	2	53	117	67	239	0	3	41	194	1	239
9月18日	日	47	0	0	9	25	13	47	0	0	9	38	0	47
9月19日	月	20	0	0	7	7	6	20	0	1	4	15	0	20
9月20日	火	8	0	0	1	2	5	8	0	0	4	4	0	8
9月21日	水	20	0	1	0	9	10	20	0	0	4	16	0	20
9月22日	木	16	0	0	3	4	9	16	0	0	6	10	0	16
9月23日	金	23	0	1	3	9	10	23	0	0	10	13	0	23
9月24日	土	46	0	1	8	15	22	46	0	0	12	34	0	46
9月25日	日	161	0	2	19	66	74	161	0	1	44	114	2	161
9月26日	月	114	0	2	6	51	55	114	1	1	32	79	1	114
9月27日	火	242	0	3	46	103	90	242	1	2	70	166	3	242
9月28日	水	86	0	0	11	52	23	86	0	0	14	72	0	86
9月29日	木	28	0	0	2	9	17	28	0	0	9	17	2	28
9月30日	金	28	0	1	3	11	13	28	0	1	7	20	0	28
計		4,012	1	42	715	1,529	1,725	4,012	2	48	1,105	2,819	38	4,012
熱中症の救急搬送人員数に対する割合			0.0%	1.0%	17.8%	38.1%	43.0%	100.0%	0.0%	1.2%	27.5%	70.3%	0.9%	100.0%

※熱中症の搬送人員に対する割合の算出に当たっては、端数処理(四捨五入)のため、割合の合計は100%にならない場合があります。

熱中症による救急搬送状況(平成28年9月)
「都道府県別の年齢区分別、初診時における傷病程度別救急搬送人員数」

都道府県		平成28年9月1日～9月30日											
		年齢区分(人)						初診時における傷病程度(人)					
		新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	合計	死亡	重症	中等症	軽症	その他	合計
1	北海道	0	1	5	13	31	50	0	3	12	35	0	50
2	青森県	0	0	4	4	6	14	0	0	4	10	0	14
3	岩手県	0	0	6	8	21	35	0	0	15	19	1	35
4	宮城県	0	1	6	27	26	60	0	1	27	32	0	60
5	秋田県	0	0	9	21	18	48	0	0	15	32	1	48
6	山形県	0	0	8	11	23	42	1	1	17	23	0	42
7	福島県	0	1	15	27	28	71	0	0	7	64	0	71
8	茨城県	0	5	18	34	41	98	0	0	32	66	0	98
9	栃木県	0	0	9	21	33	63	0	0	25	38	0	63
10	群馬県	0	1	18	34	21	74	0	1	17	56	0	74
11	埼玉県	0	1	38	78	98	215	1	0	67	147	0	215
12	千葉県	0	4	29	74	78	185	0	1	66	118	0	185
13	東京都	0	0	23	120	110	253	0	2	76	175	0	253
14	神奈川県	0	2	25	85	83	195	0	7	68	120	0	195
15	新潟県	0	0	25	41	43	109	0	1	27	81	0	109
16	富山県	0	0	16	10	10	36	0	2	7	27	0	36
17	石川県	0	0	6	12	17	35	0	2	9	24	0	35
18	福井県	0	0	6	10	14	30	0	2	8	20	0	30
19	山梨県	0	0	2	10	15	27	0	0	10	17	0	27
20	長野県	0	0	10	19	34	63	0	1	25	37	0	63
21	岐阜県	0	2	68	13	30	113	0	0	21	92	0	113
22	静岡県	0	4	13	50	41	108	0	3	21	84	0	108
23	愛知県	0	4	26	85	86	201	0	2	41	158	0	201
24	三重県	1	1	21	22	22	67	0	2	9	49	7	67
25	滋賀県	0	0	5	15	25	45	0	0	9	36	0	45
26	京都府	0	1	11	27	46	85	0	0	15	70	0	85
27	大阪府	0	1	62	164	74	301	0	0	34	267	0	301
28	兵庫県	0	0	30	49	74	153	0	1	38	112	2	153
29	奈良県	0	4	13	21	26	64	0	0	15	49	0	64
30	和歌山県	0	0	7	16	21	44	0	1	9	34	0	44
31	鳥取県	0	0	4	3	8	15	0	0	6	9	0	15
32	島根県	0	0	4	7	7	18	0	0	8	9	1	18
33	岡山県	0	2	16	32	48	98	0	2	24	70	2	98
34	広島県	0	2	30	30	64	126	0	3	45	78	0	126
35	山口県	0	0	11	11	15	37	0	0	10	26	1	37
36	徳島県	0	0	4	9	10	23	0	0	5	18	0	23
37	香川県	0	1	2	11	21	35	0	2	20	13	0	35
38	愛媛県	0	0	7	15	20	42	0	1	5	35	1	42
39	高知県	0	0	3	14	10	27	0	0	7	19	1	27
40	福岡県	0	1	21	34	45	101	0	0	41	56	4	101
41	佐賀県	0	0	9	12	25	46	0	0	14	31	1	46
42	長崎県	0	1	4	16	25	46	0	2	21	23	0	46
43	熊本県	0	0	13	54	66	133	0	3	46	84	0	133
44	大分県	0	1	7	15	20	43	0	0	19	24	0	43
45	宮崎県	0	1	15	22	40	78	0	1	13	64	0	78
46	鹿児島県	0	0	16	69	75	160	0	1	60	99	0	160
47	沖縄県	0	0	15	54	31	100	0	0	15	69	16	100
合 計【人】		1	42	715	1,529	1,725	4,012	2	48	1,105	2,819	38	4,012
割 合		0.0%	1.0%	17.8%	38.1%	43.0%	100.0%	0.0%	1.2%	27.5%	70.3%	0.9%	100.0%

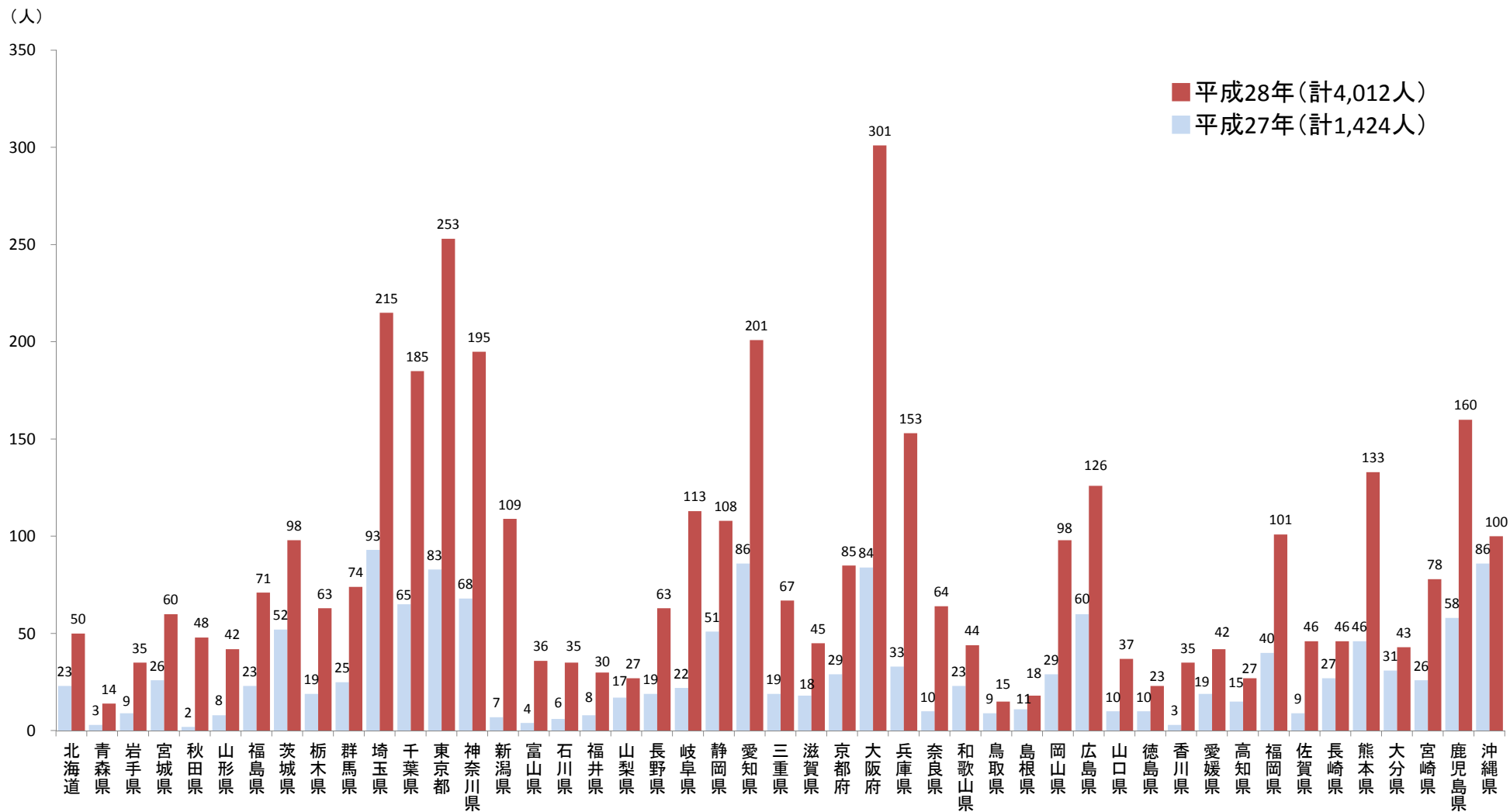
※熱中症の搬送人員に対する割合の算出に当たっては、端数処理(四捨五入)のため、割合の合計は100%にならない場合があります。

熱中症による救急搬送状況(平成28年9月)
「都道府県別救急搬送人員数昨年比(表)」

都道府県	9月1日～9月30日			昨年比(倍)	
	平成28年熱中症 救急搬送人員数 (人)	人口10万人当たりの 救急搬送人員数(人)	平成27年熱中症 救急搬送人員数 (人)		
1	北海道	50	0.93	23	2.2
2	青森県	14	1.07	3	4.7
3	岩手県	35	2.73	9	3.9
4	宮城県	60	2.57	26	2.3
5	秋田県	48	4.69	2	24.0
6	山形県	42	3.74	8	5.3
7	福島県	71	3.71	23	3.1
8	茨城県	98	3.36	52	1.9
9	栃木県	63	3.19	19	3.3
10	群馬県	74	3.75	25	3.0
11	埼玉県	215	2.96	93	2.3
12	千葉県	185	2.97	65	2.8
13	東京都	253	1.87	83	3.0
14	神奈川県	195	2.14	68	2.9
15	新潟県	109	4.73	7	15.6
16	富山県	36	3.37	4	9.0
17	石川県	35	3.03	6	5.8
18	福井県	30	3.81	8	3.8
19	山梨県	27	3.23	17	1.6
20	長野県	63	3.00	19	3.3
21	岐阜県	113	5.56	22	5.1
22	静岡県	108	2.92	51	2.1
23	愛知県	201	2.69	86	2.3
24	三重県	67	3.69	19	3.5
25	滋賀県	45	3.18	18	2.5
26	京都府	85	3.26	29	2.9
27	大阪府	301	3.41	84	3.6
28	兵庫県	153	2.76	33	4.6
29	奈良県	64	4.69	10	6.4
30	和歌山県	44	4.57	23	1.9
31	鳥取県	15	2.61	9	1.7
32	島根県	18	2.59	11	1.6
33	岡山県	98	5.10	29	3.4
34	広島県	126	4.43	60	2.1
35	山口県	37	2.63	10	3.7
36	徳島県	23	3.04	10	2.3
37	香川県	35	3.58	3	11.7
38	愛媛県	42	3.03	19	2.2
39	高知県	27	3.71	15	1.8
40	福岡県	101	1.98	40	2.5
41	佐賀県	46	5.52	9	5.1
42	長崎県	46	3.34	27	1.7
43	熊本県	133	7.44	46	2.9
44	大分県	43	3.69	31	1.4
45	宮崎県	78	7.06	26	3.0
46	鹿児島県	160	9.70	58	2.8
47	沖縄県	100	6.97	86	1.2
計		4,012		1,424	2.8

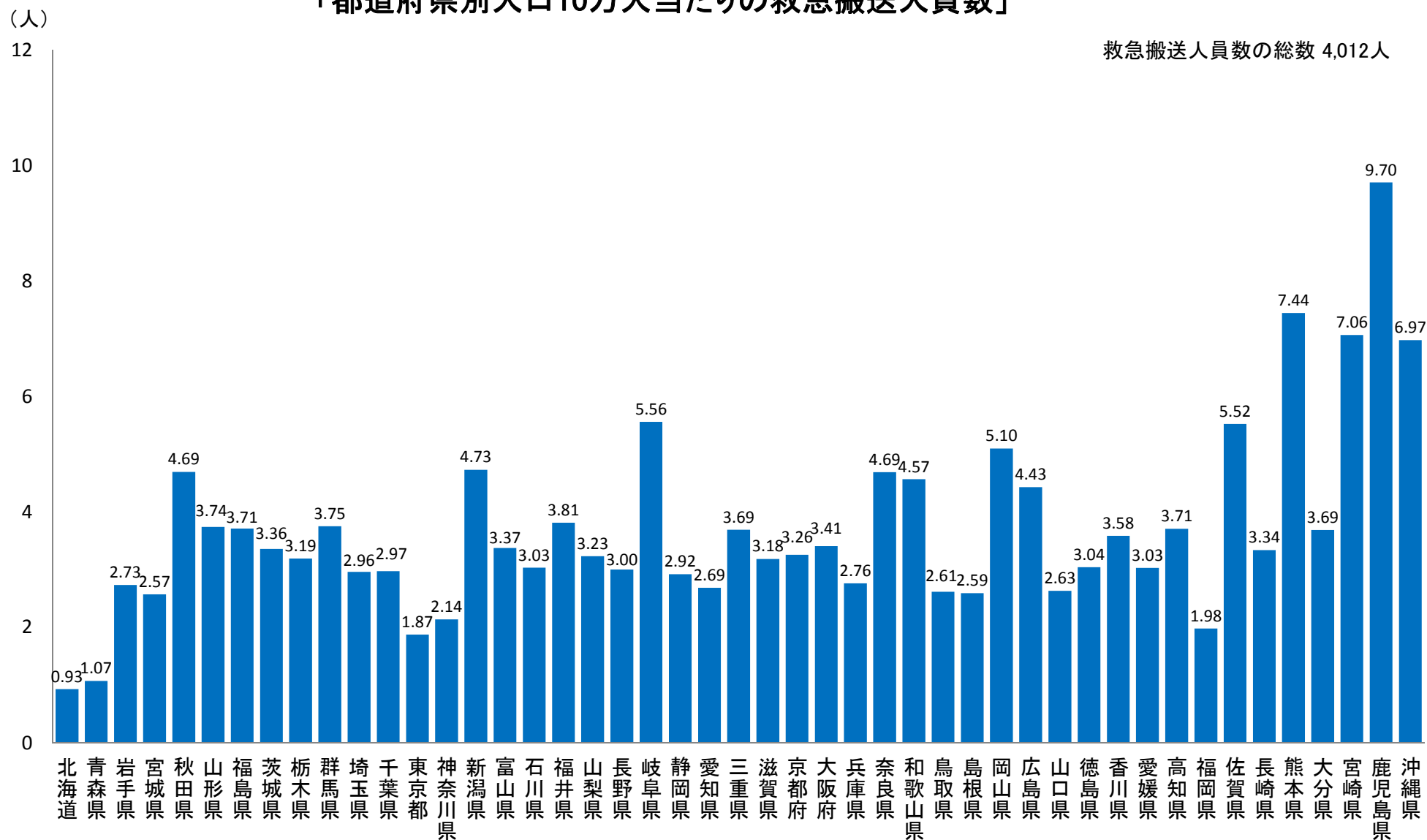
資料13

熱中症による救急搬送状況(平成28年9月)
「都道府県別救急搬送人員数昨年比(グラフ)」



資料14

熱中症による救急搬送状況(平成28年9月)
「都道府県別人口10万人当たりの救急搬送人員数」



事 務 連 絡

平成 28 年 8 月 2 日

各都道府県消防防災主管部（局）長 殿

消防庁救急企画室長

熱中症予防対策の強化について

平素より、救急行政の推進について御理解、御協力いただき御礼申し上げます。

7月28日ごろに関東甲信、7月29日ごろに東北地方が相次いで梅雨明けし、7月31日には、最高気温が35度以上となる猛暑日となった地点が、今年最多の58地点を記録しました。また、全国の消防本部からの報告によると、4月25日の調査開始からの累計で、救急搬送人員数が25,112人、そのうち初診時において33人が死亡と確認されています。（7月31日現在）

気象庁の向こう1か月の天候の見通し（7月30日～8月29日）によると、1か月の平均気温は、北日本、沖縄・奄美で平年より高く、東日本、西日本で平年並みか平年より高い見込みとなっており、政府が定める7月の「熱中症予防強化月間」は終わったものの、今後更なる熱中症に対する予防啓発が必要と考えられます。

このことから貴職におかれましては、貴管内市町村（消防の事務を処理する組合を含む。）に対して、消防庁HP掲載の熱中症予防啓発コンテンツ等を活用し、消防機関主催の各種イベント、自主防災訓練及び応急手当講習等、あらゆる機会を通じて積極的に予防啓発を行っていただきますよう、引き続きよろしく御指導くださいますようお願い致します。

消防庁HP「熱中症情報」http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_2.html

参考資料1：消防の動き7月号「熱中症予防啓発コンテンツ作成のお知らせ」

参考資料2：消防の動き8月号「熱中症による救急搬送状況」

【お問い合わせ先】

消防庁救急企画室

森川専門官、勝森係長、足立事務官

電話：03-5253-7529（直通）

E-mail：kyukyurenkei@ml.soumu.go.jp



熱中症予防啓発コンテンツ作成のお知らせ

救急企画室

1. はじめに

消防庁では、平成20年から全国の消防本部を対象に熱中症による救急搬送人員数の調査を行うとともに、熱中症予防の普及啓発活動の推進に取り組んでおります。しかし、全国で毎年4万人以上の方が熱中症により救急搬送されており、夏期の救急業務の円滑な推進のためには、更に熱中症予防の啓発活動に取り組んでいく必要があります。

2. 熱中症予防啓発コンテンツ作成の経緯

消防庁では、これまでに熱中症による救急搬送人員数調査や熱中症対策リーフレットなどを作成し、消防庁ホームページやTwitterなどで情報発信してきました。熱中症予防啓発のポイントは、暑い日や時間帯、熱中症予防を訴えたい対象者を意識した啓発が重要です。それらを踏まえて、熱中症予防啓発のための予防啓発ビデオ、予防啓発イラスト、予防広報メッセージを作成し、7月の「熱中症予防強化月間」に併せて消防庁ホームページに掲載しました。

3. コンテンツの紹介

(1) 予防啓発ビデオ

熱中症予防のポイント等を説明した動画を2種類（5分と15秒）作成しました。5分の動画は、応急手当の講習や企業の研修等、15秒の動画はスポットCMやSNS等で御活用ください。また、住民の方にも広く御覧いただけるよう各自治体のホームページや広報紙等に掲載して御案内ください。

(2) 予防啓発イラスト

全国消防イメージキャラクターの「消太」を活用して熱中症予防を呼び掛けるイラストを30点作成しました。各自治体で作成する予防啓発資料やSNS等で御活用ください。

(3) 予防広報メッセージ

暑い日や時間帯に効果的な広報ができるよう熱中症予防の広報メッセージのデータを20例作成しました。高温注意情報が発表された日や気温が30℃以上となっている時間帯、屋外イベントが開催されている地域など、

消防車、救急車、消防団車両等で、巡回するときに御活用ください。また、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会も見据えて日本語以外にも、英語、中国語、韓国語版も作成しました。

4. おわりに

熱中症は正しい知識を身につけ、適切に予防することで、未然に防ぐことが可能です。全国の消防本部においても、関係機関と連携を図りながら、これらのコンテンツを利用して、地域の住民に対して熱中症予防啓発活動を積極的に展開していただけることを期待します。

【参考】消防庁ホームページ「熱中症情報」コンテンツ掲載画面

このスクリーンショットは、消防庁の「熱中症情報」コンテンツの掲載画面を示しています。上部には「予防啓発コンテンツ」のセクションがあり、5分と15秒の2種類のビデオのサムネイルとダウンロードリンクが示されています。その下には「予防啓発イラスト」のセクションがあり、30点のイラストのサムネイルとダウンロードリンクが示されています。さらに「予防広報メッセージ」のセクションがあり、日本語、英語、中国語、韓国語の4言語で提供されているメッセージのサムネイルとダウンロードリンクが示されています。また、メッセージの内容に関する注釈も含まれています。

メッセージ例	日本語	英語	中国語	韓国語
こちらは消防署です。7月は熱中症予防強化月間です。熱中症の予防には、「水分補給」が大切です！喉の乾きを感じる前に、こまめな水分補給を行ってください！特に高齢者の方は、鼻を拭きにくく、室内でも熱中症になることもあるので十分注意しましょう！	[画像] [視聴] [ダウンロード]	[画像] [視聴] [ダウンロード]	[画像] [視聴] [ダウンロード]	[画像] [視聴] [ダウンロード]
※管理なしレベルとは、全てのメッセージのレベルについて「こちらが最難関です。」の一次が対応のものです。消防署以外の方でも利用でよろしくご活用ください。	[管理なしLevel] [視聴] [ダウンロード]	[管理なしLevel] [視聴] [ダウンロード]	[管理なしLevel] [視聴] [ダウンロード]	[管理なしLevel] [視聴] [ダウンロード]

問い合わせ先

消防庁救急企画室 森川、勝森、足立
TEL: 03-5253-7529

熱中症による救急搬送状況

救急企画室

1 はじめに

7月中旬からの梅雨明け地域の広がりとともに、全国各地で最高気温が35度以上の猛暑日が観測されるようになりました。気温の上昇に伴い、熱中症による救急搬送人員数も増えていきます。熱中症の症状は、めまいや筋肉痛等の軽度のものから、頭痛や吐き気等の中等度のもの、また意識障害や腎機能障害、血液凝固異常を起こし、死に至る重度のものまで様々です。外界の環境に影響を受けやすく、また誰にでも起こりうる病態です。しかし、適切な予防対策を講じれば、その発症を防ぐことができます。

この度、本格的な夏が到来し、引き続き熱中症対策が必要とされるこの時期に、皆様の熱中症に対する関心を高め、積極的な予防啓発活動に努めていただくことを目的として、今年の熱中症による救急搬送状況について、最新の速報値（7月25日時点）から報告します。

2 熱中症による救急搬送状況（週別推移）（図1）

5月上旬（5月2日～8日）には、400人以上の救急搬送人員数がみられ、5月中旬以降には、最高気温30度以上の真夏日が観測される地域が増えるようになり、マラソン大会や運動会等の屋外イベントで少年の熱中症

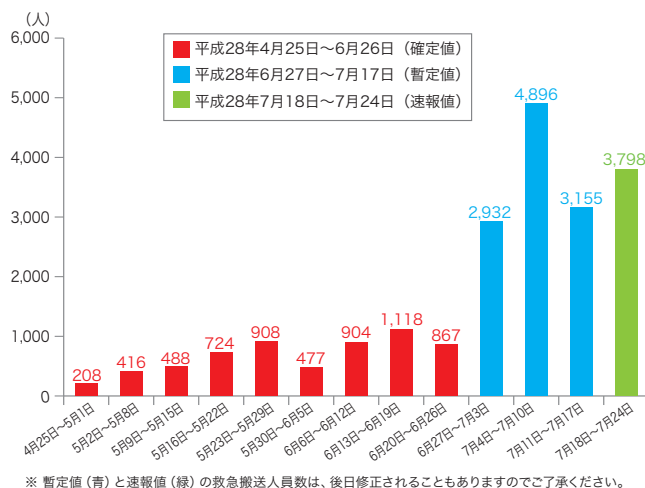


図1 熱中症による救急搬送状況（週別推移）

による救急搬送事案がみられました。6月は、梅雨が明けた沖縄県において救急搬送人員数が増える状況がみられました。7月に入り、いくつかの都道府県で猛暑日が観測され、6月27日～7月3日に2,932人（対前年比約5.4倍）、7月4日～10日は4,896人（対前年比約3.7倍）となりました。また、最新の速報値（7月18日～24日）は、3,798人となりました。急激に気温が上昇するような環境の変化に、体の順応が追いつかなかったことも、救急搬送人員数の増加の要因のひとつと考えられます。

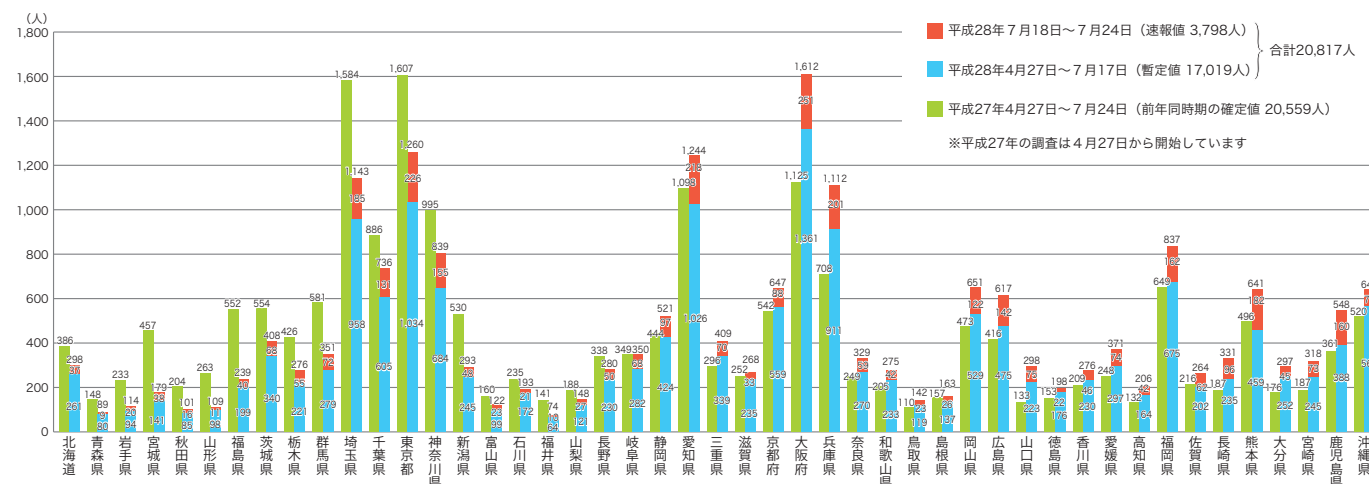


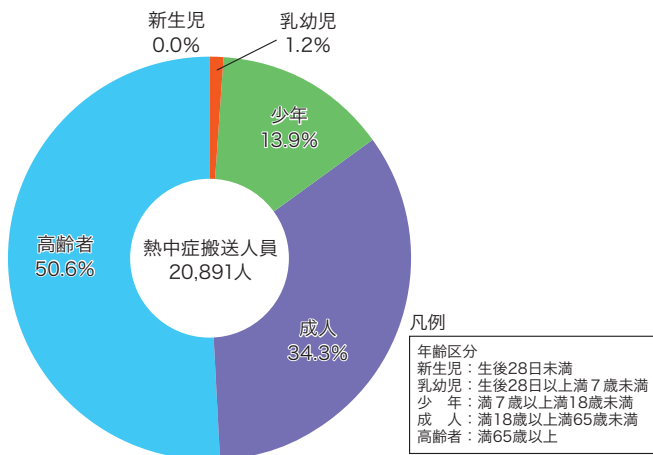
図2 熱中症による救急搬送人員数（都道府県別昨年比）

3 熱中症による救急搬送人員数の総数 (都道府県別昨年比) (図2)

今年の第1週から第13週(4月27日から7月24日)までの熱中症による救急搬送人員数は20,891人です。4月27日から7月24日までの期間で昨年と比較すると、今年の方が258人多くなっています。

4 年齢区分ごとの救急搬送人員数 (図3)

今年の第1週から第13週までの熱中症による救急搬送人員数の合計20,891人のうち、高齢者が10,572人で最も多く、次いで成人7,157人、少年2,909人、乳幼児253人となっています。救急搬送人員数の半数近くを高齢者が占めます。高齢者は暑さやのどの渇きを自覚しにくいなど体の変化に気づきにくいことが原因のひとつと考えられます。高齢者には、周囲の方がこまめに声をかけて、水分補給や暑さ対策などの予防行動を促すことが大切です。

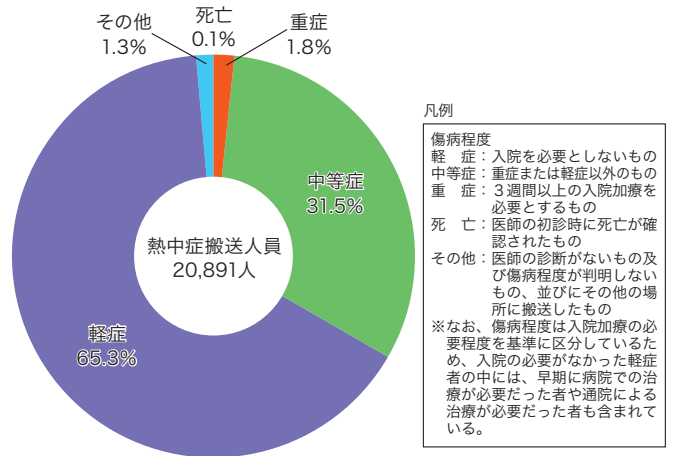


※熱中症の搬送人員に対する割合の算出に当たっては、端数処理(四捨五入)のため、割合の合計は100%にならない場合があります。

図3 年齢区分別搬送人員数

5 傷病程度ごとの救急搬送人員数 (図4)

今年の第1週から第13週までの傷病程度ごとの救急搬送人員数の合計20,891人のうち、軽症が13,634人で最も多く、次いで中等症6,581人、重症372人、死亡24人となっています。熱中症の症状は、年齢や持病など傷病者の背景の違いにも影響を受け、刻々と変化をします。中には、短時間で重篤な状態に陥る場合もありますので十分に注意が必要です。



※熱中症の搬送人員に対する割合の算出に当たっては、端数処理(四捨五入)のため、割合の合計は100%にならない場合があります。

図4 傷病程度別搬送人員数

6 熱中症予防の啓発について

熱中症予防の啓発は、暑い日や時間帯、熱中症予防を訴えたい対象者を意識した啓発が重要です。それらを踏まえて、消防庁では、消防本部や熱中症予防を啓発する関係機関が熱中症予防の啓発活動を積極的に行っていたり、ただけでなく熱中症予防啓発コンテンツを作成しました。1つ目は、熱中症予防のポイントや応急手当等を分かりやすく説明した予防啓発ビデオ(5分と15秒)です。2つ目は、全国消防イメージキャラクターの「消太」を活用した熱中症予防を呼び掛ける予防啓発イラスト(ぬり絵もあり)です。3つ目は、暑い日や時間帯に、消防車両や防災無線等を使い効果的な予防啓発活動ができるように作成した予防広報メッセージです。これらのコンテンツを活用し、積極的に予防啓発活動に取り組んでいる消防本部がみられます(参考情報)。

7 おわりに

熱中症を理解し、予防行動をとることで、熱中症は発症や重症化を防ぐことが可能です。また、周囲の気遣いで熱中症弱者といわれる高齢者や子供を守ることができます。

消防庁ホームページでは、熱中症による救急搬送状況の速報値を毎週発表するとともに、熱中症予防啓発コンテンツを掲載しています。全国の消防本部においても、関係機関と連携を図りながら、これらのコンテンツを利用して、地域の住民に対して熱中症予防の啓発活動を積極的に展開していただけることを期待します。

【参考情報】 熱中症予防啓発コンテンツを活用した取組事例

《鹿児島市消防局》 熱中症予防啓発ビデオとイラストを、鹿児島市役所のホームページ「熱中症を予防しよう！」に掲載しています。

熱中症を予防しよう！

「熱中症は予防できる」

毎年、この季節になると熱中症が発生しやすくなります。鹿児島市でも、熱中症で救急搬送される方が増えてきております。下記の動画を参照していただき、「熱中症は予防できる」を合言葉に、暑い夏を乗り切りましょう。

熱中症予防広報動画

- 15秒バージョン




- 5分バージョン（推奨）



《下関市消防局》 熱中症予防啓発ビデオとイラストを、下関市役所のホームページ「熱中症予防に関するご案内」に掲載しています。

熱中症予防に関するご案内

公開日: 2016年7月19日

ツイート いいね! 0 G+ 0 チェック

(お知らせ)
市民の皆様へ

熱中症予防のため、総務省消防庁 救急企画室が『熱中症情報』を公開いたしました。

熱中症に関する「予防啓発ビデオ」「予防啓発イラスト」「予防広報メッセージ」が掲載されています。

是非ご覧いただき、熱中症予防に努め、健康な毎日を送ってください。

リンク

▶ 『熱中症情報』(予防啓発ビデオほか) (総務省 消防庁HP)



消防庁熱中症情報 http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_2.html

※熱中症予防啓発のコンテンツは、このURL内に掲載しています。

問い合わせ先

消防庁救急企画室 森川、勝森、足立
TEL: 03-5253-7529

事 務 連 絡
平成 28 年 4 月 27 日

〔熊本県〕
〔大分県〕

消防防災主管課 御中

消防庁救急企画室

被災住民等の熱中症対策について

これから夏にかけて気温が上昇していく中、被災地の気象条件、生活環境等によっては被災住民やボランティア等の方々の熱中症にかかるリスクの上昇が懸念されます。

つきましては、被災住民やボランティア等の方々に対して、熱中症に対する注意喚起と予防方法について積極的に情報提供を行う必要があることから、別添の厚生労働省の事務連絡を参考に、貴都道府県内の消防本部及び消防団事務を処理する市町村に対して協力を行うよう速やかに周知願います。

【お問い合わせ先】

消防庁救急企画室

森川救急専門官、勝森係長、足立事務官

TEL 03-5253-7529 (直通)

事 務 連 絡
平成 28 年 4 月 22 日

〔 熊本県
大分県
熊本市 〕 衛生主管部局 御中

厚生労働省健康局健康課
地域保健室

被災地における熱中症予防について（周知依頼）

日頃より厚生労働行政の推進に御協力いただき、厚く御礼申し上げます。

この度、熊本地震により被災された皆さまに対し、心からお見舞い申し上げます。

今般、「被災住民等の熱中症対策について（周知依頼）（平成 28 年 4 月 22 日付事務連絡）」（別添 1）により、被災地の住民、ボランティア等の方々に熱中症予防についてお知らせしたところです。

被災地では、これから夏にかけて、気温が急上昇する中での家の片付け作業や、避難している車の中の気温の上昇等、特に熱中症に注意をする必要があると見込まれるため、厚生労働省では、「熱中症予防のために」（別添 2）のチラシを作成いたしました。貴自治体におかれましては、こまめな水分・塩分の補給等による熱中症予防対策につきまして、本チラシを活用する等により、広報していただきますようお願いいたします。

（担当者）

厚生労働省健康局健康課地域保健室
有賀 玲子、小貫 正子、鈴木 麻利
TEL : 03-5253-1111（内：2334）
FAX : 03-3503-8563
e-mail : aruga-reiko@mhlw.go.jp
onuki-masako@mhlw.go.jp
suzuki-mari@mhlw.go.jp

(別添 1)

事務連絡

平成 28 年 4 月 22 日

熊本県
大分県
熊本市

熱中症予防対策担当部局 御中

環境省総合環境政策局環境保健部環境安全課
環境省水・大気環境局大気環境課大気生活環境室
厚生労働省健康局健康課

被災住民等の熱中症対策について (周知依頼)

平成 28 年熊本地震によって被災された皆さまに対し、心からお見舞い申し上げます。

これから夏にかけて気温が上昇していくことが見込まれる中、気象条件や作業内容、生活環境等によっては被災住民、ボランティア等の方々が熱中症にかかるリスクが高くなると見込まれます。このことから、下記の内容について適宜周知いただきたくお願いいたします。

記

●熱中症対策について

【注意事項】

- (1) こまめに水分を取りましょう。
- (2) 気温が急に上昇した日、家財道具等の片付け作業を行う時、車の中等は特に注意しましょう。

【作業時の注意事項】

- (1) 体調が悪い日は作業を行わないようにしましょう。
- (2) 日陰を確保して一定時間ごとに必ず休憩を取りましょう。
- (3) できるだけ 2 人以上でお互いの体調を確認しながら作業を行きましょう。

また、4 月 25 日(月)より下記のウェブサイトで熱中症のかかりやすさを示す「暑さ指数(WBGT)」を公表します。これらの情報を随時確認し、熱中症にかからないようにしましょう。

「環境省 熱中症予防情報サイト」(<http://www.wbgt.env.go.jp/>) **検 索 | 環 境 省 熱 中 症**

以上

《本件照会先》

	熱中症対策全般		暑さ指数(WBGT)の公表
担当課室	環境省 総合環境政策局 環境保健部環境安全課	厚生労働省 健康局 健康課地域保健室	環境省 水・大気環境局 大気環境課大気生活環境室
担当者名	加藤、松本、大木	有賀、小貫	長谷川、梅澤
TEL	03-5521-8261	03-3595-2190	03-5521-8300
FAX	03-5580-3596	03-3503-8563	03-3593-1049
e-mail	netsu@env. go. jp	communityhealth@mhlw. go. jp	heat@env. go. jp

皆さまへ、ご注意とお願い

熱中症予防のために



こまめに水分を補給してください

室内でも、外出時でも、のどの渇きを感じなくても、こまめに水分・塩分、経口補水液※などを補給しましょう。

※ 経口補水液とは、食塩とブドウ糖を溶かしたものをいいます。

暑さを避けてください

室内では・・・

- ▶ 扇風機やエアコンで温度を調節
- ▶ 遮光カーテン、すだれ、打ち水を利用
- ▶ 室温をこまめに確認

からだの蓄熱を避けるために

- ▶ 通気性のよい、吸湿性・速乾性のある衣服を着用する
- ▶ 保冷剤、氷、冷たいタオルなどで、からだを冷やす

外出時には・・・

- ▶ 日傘や帽子の着用
- ▶ 日陰の利用、こまめな休憩
- ▶ 天気のよい日は、日中の外出をできるだけ控える

気温が急に上昇した日、家の片付けなどの作業を行うとき、車の中などでは特に注意し、以下の症状に気をつけてください。

熱中症の症状 ▶ めまい、立ちくらみ、手足のしびれ、筋肉のこむら返り、気分が悪い、頭痛、吐き気、嘔吐(おうと)、倦怠感、虚脱感、いつもと様子が違う

≪重症になると≫ 返事がおかしい、意識消失、けいれん、からだが熱い

熱中症が疑われる人を見かけたら

涼しい場所へ

エアコンが効いている室内や風通しのよい日陰など、涼しい場所へ

からだを冷やす

衣服をゆるめ、からだを冷やす(首回り、脇の下、足の付け根など)

水分補給

水分・塩分、経口補水液などを補給する

自力で水が飲めない、意識がない場合は、すぐに救急車を！

「熱中症」は、高温多湿な環境に長くいることで、徐々に体内の水分や塩分のバランスが崩れ、体温調節機能がうまく働かなくなり、体内に熱がこもった状態を指します。屋外だけでなく室内で何もしていないときでも発症し、救急搬送されたり、場合によっては死亡することもあります。

詳しくは、厚生労働省ホームページ「熱中症関連情報」をご覧ください。

厚生労働省 熱中症

検索

事 務 連 絡

平成 28 年 5 月 24 日

各都道府県消防防災主管部（局）長 殿

消防庁救急企画室長

熱中症予防対策の強化について

平素より、救急行政の推進について御理解、御協力いただき御礼申し上げます。
今年も、5月中から 30℃以上の真夏日を観測する地域が続出しており、調査を開始した 4 月 25 日から 5 月 22 日までの熱中症による救急搬送人員数の総数は、既に 1,797 人（速報値）となりました。6 月を前に全国各地でマラソン大会等のイベントや、学校関係の施設で運動会等の屋外イベントが開催され、少年※¹の熱中症による傷病者発生事案が多発しています。また、高齢者の死亡例も 1 例報告されています。気象庁によると、今後も暑い日が続くとの予報が出されており、引き続き熱中症対策の強化が必要です。

消防庁では、こまめな水分補給などの熱中症対策等について紹介した「熱中症対策リーフレット」を作成・公表しているほか、ツイッターを通じて注意喚起を図っているところです。

貴職におかれましても、貴都道府県内の消防本部（消防の事務を処理する組合を含む。）に対し、早い時期からの熱中症対策の強化について更なる取組を進めるため、地域住民に対して、消防機関主催の各種イベント、自主防災訓練及び応急手当講習等、あらゆる機会を通じて積極的に熱中症対策の啓発を行うとともに、消防機関主催のイベント等における熱中症対策にも留意して頂きますよう、よろしくご指導をお願い致します。

※1 「少年」は満 7 歳以上満 18 歳未満の者をいう。

消防庁救急企画室

森川・勝森・足立

電 話 03-5253-7529

F A X 03-5253-7539

事 務 連 絡

平成 28 年 8 月 2 日

各都道府県消防防災主管部（局）長 殿

消防庁救急企画室長

熱中症予防対策の強化について

平素より、救急行政の推進について御理解、御協力いただき御礼申し上げます。

7月28日ごろに関東甲信、7月29日ごろに東北地方が相次いで梅雨明けし、7月31日には、最高気温が35度以上となる猛暑日となった地点が、今年最多の58地点を記録しました。また、全国の消防本部からの報告によると、4月25日の調査開始からの累計で、救急搬送人員数が25,112人、そのうち初診時において33人が死亡と確認されています。（7月31日現在）

気象庁の向こう1か月の天候の見通し（7月30日～8月29日）によると、1か月の平均気温は、北日本、沖縄・奄美で平年より高く、東日本、西日本で平年並みか平年より高い見込みとなっており、政府が定める7月の「熱中症予防強化月間」は終わったものの、今後更なる熱中症に対する予防啓発が必要と考えられます。

このことから貴職におかれましては、貴管内市町村（消防の事務を処理する組合を含む。）に対して、消防庁HP掲載の熱中症予防啓発コンテンツ等を活用し、消防機関主催の各種イベント、自主防災訓練及び応急手当講習等、あらゆる機会を通じて積極的に予防啓発を行っていただきますよう、引き続きよろしく御指導くださいますようお願い致します。

消防庁HP「熱中症情報」http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_2.html

参考資料1：消防の動き7月号「熱中症予防啓発コンテンツ作成のお知らせ」

参考資料2：消防の動き8月号「熱中症による救急搬送状況」

【お問い合わせ先】

消防庁救急企画室

森川専門官、勝森係長、足立事務官

電話：03-5253-7529（直通）

E-mail：kyukyurenkei@ml.soumu.go.jp